

「能仁新報」よりみた名古屋の仏教（五）

——明治二十七年一月～明治二十七年八月——

川 口 高 風

凡 例

- 一、本稿は「能仁新報」に掲載されている現在の名古屋市内にあたる地域の仏教関係の記事を採録した。「能仁新報」（名古屋朝日町五十六番戸 能仁社発行）の原本は東京大学法学部の明治新聞雑誌文庫に所蔵するものを使用した。同文庫には明治二十三年五月十二日発行の第一号より明治三十三年六月二十五日発行の第六四九号まで所蔵するが、明治二十四年六月八日（第五十七号）、六月十五日（第五十八号）、同二十七年九月七日（第三三三号）から同二十八年七月三十日（第三七〇号）、同二十九年十一月十六日（第四三八号）から同三十一年八月三十日（第五五五号）までの発行号数は欠本となっているため、その間の記事はない。
- 一、第五回は「能仁新報」第一九一号（明治二十七年一月一日）より第三二二号（明治二十七年八月三十一日）までから採録した。
- 一、翻刻にあたり仮名使いは原文のままとし、旧漢字は新漢字に、変体仮名はすべて平仮名に改め句読点を付した。なお、記事に付してある漢字のルビは削除し、明らかな誤植は訂正した。
- 一、記事は掲載年月日順に配列したが、記事中に「当市」とあるのは名古屋市のことである。

獄屋跡の建仏堂〔明治27年1月1日 第一九一号〕

屢々記せし同事業は、愛知仏教会にては既に市参事会へ請求書を提出し、同時に本社に於ては号外を発行し、普ねく市民諸君に配付して、其の賛同を乞ひしに、既に其の美挙を賛成せられしのみならず種々なる物品の寄贈を申込まるゝ迄に立至りしを以て、同会にては徹頭徹尾同事業を全ふせんものと尚尽力せらるゝのみならず。曾て記せし如く、近々各所に大演説会を開かるべしと云。

私立曹洞教会〔明治27年1月1日 第一九一号〕

来る七日は七小町普蔵寺に、八日は裏門前町宝泉寺に於て、何れも修証義を講ぜらるゝ由。

曹洞宗取締の撰挙〔明治27年1月8日 第一九二号〕

尾濃二国の同取締撰挙は、愈々来る廿日迄に、夫々手順を経て差出すべき筈なるが、右の候補者には大江靈樹氏（乾坤院）杉本道山氏（瑞泉寺）温嶽耕堂氏（本光寺）野々部至遊氏（安齋院）小寺黙音氏等の諸氏なるが、要するに同宗にては従来久しき紛擾を醸せし為、布教々学等更に進行せられざる有様なりしも、今や稍紛擾も一段落を告げんとする折柄なれば宜敷至直、公平に後進を策励する所謂眼中、更に曹洞宗の外には他なきの良師を挙げ、能く従来の濁根を清浄にし、同宗の檀信をして能く洞門の法水を味はしめられん事を切望せざるを得ず。

私立曹洞教会〔明治27年1月8日 第一九二号〕

本日午後二時より裏門前町宝泉寺に於て例会を開き、修証義の講筵せらるゝ筈、又来る十日には、白川町大運寺に於て全会を催さる筈にて、両所共水野が出席せる筈なり。

緊急仏教大演説の延期〔明治27年1月8日 第一九二号〕

社員水野は近日、吾人仏教者として大に覚悟せざる可らざる事件続々発生せるを以て、大に憂国慨世の志士に訴へんとして、昨日当市大光院に於て演説を開会する筈にて、既に諸新聞へも広告せしが、俄かに会席差支の為め延期せしも何れ不日、大に仏教上緊急問題に就き表白せる筈なりと云。

善光寺如来の内拝〔明治27年1月8日 第一九二号〕

近国有志同行の発願に依りて、世にも有難き三国伝来の靈仏善光寺如来尊の臨名を請ひ、有縁の信徒同行のために不日、当地に於て十日間之が内拝を許すことゝなり。不日着名の節は、盛んなる出迎ひをなすよし目下諸事準備中なりと云ふ。

薄命者〔明治27年1月8日 第一九二号〕

当市大曾根百六十五番戸平民人力車夫佐藤鉄次郎五十八妻リウ四十三は、夫婦間に十四才を頭とし五人の子供あり。辛く生計を営み居りし処、リウは過般血の道を病み、漸く施療薬を受けて稍全治せんとせしに、亦た発狂し目下右看護の為に家内の困難なるを

慰み、近傍慈善者より聊かの恵みを受け居るも、家内多人数の事として頗る必迫に陥りしを聞き、愛知仏教会にては若干の金員を贈与されたり。

月輪正遵氏の来名〔明治27年1月8日 第一九二号〕

氏は別項に記せる善光寺如来開帳の用向を以て来名し、向ふ七日間当市富沢町桑名屋に滞留せらるゝ由。

施薬院の評議員会〔明治27年1月15日 第一九三号〕

全院は一昨日、事務所橋詰町慶栄寺に於て開会せられ、出席員三十余名にて全院堀部副院長議長席に就き、全院規則改正及全院名称を大日本施薬院と改むべき等十数件を討議し午後七時閉会せられしが、全院は旧臘中、荒木諦善氏が東京にて各貴顕紳士の協賛を請はれ、日増し盛大の氣運に達せりと云ふ。

秋琴楼の大般若〔明治27年1月15日 第一九三号〕

当市旅館秋琴楼主井東松造氏は、毎年春期大般若会を修せられしが、去る十一日、大光院主竜桑巖師及其の他廿余名の僧侶を請して営弁せられたりと云ふ。

法脈会と説教〔明治27年1月15日 第一九三号〕

当市松山町安齋院野々部至游氏は、昨年より法脈会を毎月一回宛修せられしが、右加入者一千余名にて、来る十七日は第二回の定

日にて、参詣者は午前より参集し、礼仏聞法を殊勝に行はるゝ筈なりと云。

私立曹洞教会〔明治27年1月15日 第一九三号〕

去る七日、七小町普蔵寺に於て開かれたる全会は予期の如く、全日は大般若を転読し、午後社員水野が修証義を講述し、続て西野石梁師が説教を勤められたり。

国学校の始業式〔明治27年1月15日 第一九三号〕

本日午後一時より宮出町永安寺に於て全式を挙行せらるゝ由。

愛知仏教青年会の定期演説〔明治27年1月22日 第一九四号〕

一昨廿日、代官町京柳座に開きし同演説は、当夜嚴寒なりしにも似ず、聴衆夥しく午後六時開会し、弁士総て八名にて同十時過無事に閉会せらる。

授戒会〔明治27年1月22日 第一九四号〕

熱田町新尾頭曹洞宗陽泉寺は、過般より江湖会執行中にて、既に客秋全宗の大本山貫首森田禪師を請し授戒会を修行せらるゝ計画にて、本紙にも広告せられし程なりしが、全宗紛擾の爲め上京せらるゝ事と爲り、延期中なりしが全宗の紛擾も一と先づ沈静に帰したれば、大本山森田禪師を請し、来る二月十二日より全寺に於て大授戒会を修行せらるゝと云ふ。

施薬院の仏教演説

〔明治27年1月22日 第一九四号〕

大日本施薬院は事業拡張の爲め、廿一日菅原町浄教寺、廿二日南久屋町誓願寺、廿三日橋詰町慶栄寺、二十四日袋町善林寺、廿五日門前町阿弥陀寺に於て、何れも午後六時より仏教大演説会を開会する由にて、其弁士は原兵一郎、千葉知養、水野道秀、広間隆円、伊藤智満、黒田安麿、丹羽摺爾の諸氏なりと云ふ。尚ほ編者へも出席を乞はる。

愛知仏教少年教育会

〔明治27年1月22日 第一九四号〕

当市菅原町の浄教寺内に設立しある同会は漸次盛會と爲り、現今正会員七百八十余名、補助員三百五十名なるが、毎月第三の日曜日を以て開会の規定なりしゆえ、本年初会の同会は昨廿一日午前八時より仏教演説会を催す。出席弁士は南条文雄博士を始め其外水野道秀、箕浦現遵、広間隆円、太田元遵等の諸氏なりしと云ふ。

愛知仏教青年会報告

〔明治27年1月22日 第一九四号〕

去る十五日午後三時より委員会を開き、左の件々を議す。

来る廿七日午後一時より袋町延命院に於て新年会を開く。但し清齋にて小宴を開く。其会費金拾銭、当日御持参、尚参会の諸氏は来る廿四日迄に、宮出町曹流寺若くは下園町二丁目百三番戸永井宋太郎方へ申込ありたし。

本会事務所を名古屋市宮出町曹流寺内に新設し、諸般の事務を

取扱ふ。

今後更に委員総代を置き、濤聴同氏に依托す。

広告

〔明治27年1月22日 第一九四号〕

二月十二日ヨリ全十八日ニ至ル

大授戒会 熱田尾頭町
陽泉寺

戒大本山

永平寺御貫首殿

広告

〔明治27年1月22日 第一九四号〕

目下江湖会修行中の処、送行も近寄候。付ては本月二十五日より三日間、左の法要を営み候に付、精々有信の御方は御繰合せ御参詣被下度候也。

二十六日羅漢供養

二十七日恒規大般若

説教并に大導師大光院住職 竜 桑顛殿

門前町 功徳院

愛知仏教青年会の新年会

〔明治27年1月29日 第一九五号〕

愛知仏教青年会の新年会は予記の如く、去る廿七日午後二時より当市袋町延命院に於て開会されしが、会する者四十余名にして、

席定まるや涛聴同氏開会の主意を述べ、來賓物代として水野道秀氏の挨拶あり。黒田益江氏等の演説あり。且清齋の配与を了り酒盤の間に談笑歓語し、十二分の歡を尽して退散せられしは黄昏なりき。

愛知仏教會員の義拳（明治27年1月29日 第一九五号）

当市下園町二丁目の小塚半七氏の發起にて全町服部、岡田、梶原、杉浦等諸氏に謀り、今回県下東春日井郡より北海道に移住されし人々が、此の寒天に向ひ波涛を凌ぎ拓殖の事業を興し国家の富強を斗らんとせらるゝを感激し、数千個の菓子パンを贈り、その美拳を賛せられたりと云。右に付移住人の取締水野治左衛門氏には、一同に代り厚く諸氏の高誼を謝したりと共に嘉すべき義拳にこそ。

広告（明治27年2月5日 第一九六号）

二月十二日より全十八日ニ至ル

大 授 戒 会 熱田尾頭町
陽 泉 寺

戒 大 本 山

永平寺御貫首殿

広告（明治27年2月12日 第一九七号）

曹 名古屋吉祥講發講式
洞 右は、来る十九日正午十二時より門前町大光院にて挙行致し候
条、講社員は右時刻に御参詣、受付へ御姓名御届け被下度此段報
告候也。

名古屋吉祥講

吉祥講發講式（明治27年2月12日 第一九七号）

屢々記載せし当市曹洞宗信徒の組織されし全会は、弥来る十九日門前町大光院に於て發会式を挙行せらるゝ由。因に全講へ加盟せし信徒は目下二千五百戸なりといふ。又全日式場の順序は左の如くにて、市内の寺院は総出勤なりと云ふ。

發講式順序

- 一 奏樂にて寺院及講員着席
 - 二 幹事長發講之辭
 - 三 講員之祝弁
 - 四 大禪師 御法語
 - 五 両祖大師へ御誦經
 - 六 大施餓鬼講員先祖回向御親修
 - 七 大禪師 御親教
 - 八 上野隨行長演說
 - 九 講員一同 大禪師猊下へ拝謁
 - 十 講員へ茶菓配与
- 以 上

永平寺大禅師の来着〔明治27年2月12日 第一九七号〕

曹洞宗大本山永平寺貫首森田悟由禅師には、昨日午前九時廿分東京より熱田停車場へ着せられたり。兼て全処へは全宗寺院及信徒一百余名出迎ひ、全町の全隆寺にて小憩の後ち、一同腕車（禅師は馬車）を列て新尾頭町陽泉寺へ着せられ、本日より授戒会を執行せらるゝ由。又全師には、来る十八日授戒会完結後は十九日当市大光院にて挙行せらるゝ吉祥講発会式に親臨せらるゝ由にて、全日は全宗信徒長谷川太兵衛（市会議員）の塩町別邸を旅館とせらるゝ筈なり。

広告〔明治27年2月19日 第一九八号〕

三月五日午後一時音楽法要

同六日ヨリ十二日マデ

授戒会 当市白川町
誓願寺於テ

教師東総本山法主殿

広告〔明治27年2月19日 第一九八号〕

曹洞名古屋吉祥講発講式

右は、来る十九日正午十二時より門前町大光院にて挙行致し候条、講社員は右時刻に御参詣、受付へ御姓名御届け被下度、此段報告候也。

名古屋吉祥講

名古屋の名刹保存の必要〔明治27年2月19日 第一九八号〕

名古屋の名刹保存の必要

伊東洋二郎

名古屋の地たる東西両京の中央に位置し、所謂帝国の中京と称すべきものなり。然り而して、元龜天正年間に頻々輩出せる偉人傑士の誕蹟旧趾、大社名刹は市の内外に基布森羅し、其宏壯偉觀は自から此地方の高雅勝致を成し、神聖の遺俗と先傑の旧蹟とは咫尺の間に歴々たり。実に千古の活歴史と謂ふべきなり。殊に夫れ、近年旧名古屋城を改めて離宮と為し、熱田大社を改めて神宮と為し玉ふてより、外国賓客の来りて此地を欣賞し、離宮神宮の偉壯盛觀を拝し、又民風生産の殷阜豊饒を感歎するもの陸續踵を接せり。豈に亦た喜ぶべきの事にあらずや。

夫れ今日にして此の如し。若し尚ほ我帝国の歴史に關係を有する名古屋市内外に在る名刹の敗類せるものを修理し、且其縁起を頒告し、以て我帝国の中世治乱興廢の活歴史として徴知せしむべき事を努むる時は、我帝国の人民の此名古屋の地を欽迎すること、其父母の国を懷慕するが如くなるや得て知るべきのみ。帝国の人民にして既に此の如くならば、則ち外国賓客の此地に來遊するもの必ず多く、随つて土地の昌榮を潤色すると共に、仏教の紹隆を加るに至るべきや明らけし。

試みに名古屋市の内外に在る名刹に詣で、其勝境を觀て肅然往時を追懷せば、豈に千古歴史的の感慨起らざらんと欲するも亦た得べけんや。況んや名古屋の光華を今日まで耀かし來れるもの、亦

た此名刹の在るあるに由らざるものなくんばあらざるや、既往にして此の如し。然るを況んや将来を也、豈に益々名刹を保存し、其縁起を頒告して以て、仏教の紹隆を策画し以て、土地の昌栄を潤色せざるべけんや。真俗二諦は仏教の大綱にして護国の所依なり。名勝旧觀を保存するは、亦た是れ文明の一美事なり。生滅無生無量無作出世無漏の因果を会得し、所謂文明の盛世に樂まんと欲する人は、請ふ名刹保存の事を画謀せよ。

仏教少年教育会の定規会〔明治27年2月19日 第一九八号〕

当市菅原町浄教寺内に設立しある愛知仏教少年教育会は、昨十八日午前八時より定規仏教演説会を開会せられしが、其出席弁士は真宗大谷派二等学師吉谷覺寿師を始め、其他春木亨元、箕浦現遵、広間隆円等の諸氏にして、尚ほ其際螢光夜話集と題する少年脩身の冊子を全會員に弘く配与せられたり。

仏教青年会定規演説〔明治27年2月19日 第一九八号〕

愛知仏教青年会にては、去十八日午後七時より愛知郡熱田町龜井山にて定規演説会を開会する由。出席弁士は濤聴同、一柳智成、岡谷資三郎氏外数名なりと云ふ。

長谷川氏法会を営む〔明治27年2月19日 第一九八号〕

今回、小舟町長谷川太兵衛氏は大本山永平寺貫首猊下の旅宿を請ひ、昨日は氏の別荘に於て故白鳥鼎三老師の法会を営み、又明二

十日は、本宅に於て祖先追福の法会を修せらるゝと云ふ。

永平寺貫首授戒会概況〔明治27年2月19日 第一九八号〕

同授戒会は予期の如く、去る十二日より啓建にて教授師西野石梁師、引請師畑中貫禪師にて、四衆受戒者は四百余名にて近來になり盛会なりき。殊に同法会中、随行长上野瓶城師は説教師として日々懸河の弁を振はし、道俗も一層法味に感じたりと。又右法会は昨日限り完成にて、上堂法式の後ち森田禪師には馬車に召され、同宗寺院及信徒腕車を列して塩町長谷川太兵衛の別邸に赴かれたり。

吉祥講発講式〔明治27年2月19日 第一九八号〕

曾て前号に報導せし発講式、弥本日大光院に於て挙行せらるゝ筈にて、本日は午前十時寺院及信徒世話係の人々は貫首森田禪師を長谷川邸に迎ひ、夫より大光院へ移らるゝ筈なりと云ふ。又同禪師には、廿一日午前八時二十分発の列車にて帰京せらるゝと云ふ。

愛知仏教会東春支部演説〔明治27年2月19日 第一九八号〕

同支部会に於て、去る十二日上中切長全寺にて第一回の演説を催され、又同十四日吉根村觀音寺にて開会せられ、出席員土田虎道、日比野源成、林祥光氏なりし。同日は社員水野も参席したり。

授戒会〔明治27年2月26日 第一九九号〕

本紙特別広告にあるが如く、当市白川町誓願寺に於て授戒会を開かるゝが、其の戒師は京都東総本山禅林寺法主（永観堂）清水範空大僧正にして、同僧正には来る三月五日午前十一時笹島に着せられ、同日午後一時より音楽法要を行ひ親教あり。同六日午前八時より授戒会を開かるゝ順序なりと云ふ。

高野出張所の大法会〔明治27年2月26日 第一九九号〕

当市南伏見町の出所に於て、来る廿一日午後一時より土砂加持の祈祷ありたり。

広告〔明治27年2月26日 第一九九号〕

三月五日午後一時、音楽法要
同六日ヨリ十二日マデ

授戒会 当市白川町
誓願寺於テ

戒師東総本山法主殿

仏教演説会〔明治27年2月26日 第一九九号〕

愛知仏教青年会にては、去十八日定規演説会を愛知郡熱田町亀井山に於て午後七時より開会したり。聴衆満堂にて岡谷資三郎（開会の主意）、植村竜道（真誠の快樂）、黒田豊太（仏教を以て国教とすべし）、田中鉄次（吾人の最恐るべき者は何なりや）、月照居

士（仏の鉄拳）、石黒泰円（人心の本質）、易公（仏教の勢力）、涛聴同（一大事）の諸氏登壇、交々雄弁を振り拍手喝采の中に閉会したりしは一時なり。因に記す同会は、熱田町に於て始て開会したる者なるが、同会青年者に大に同会の主義目的を讃成し、同夜即時入会を申込し者数名あり由。

神谷大周師の講義〔明治27年3月5日 第二〇〇号〕

来る十七日より当市裏門前町総見寺に於て、同師を請し例会の如く講義を開かるゝ由。講本等確定の上は再報すべし。

大婚式奉祝の詩歌を募集す〔明治27年3月5日 第二〇〇号〕

当市宮出町涛聴同、同上園町二丁目永井宋太郎の二氏が発起となり、来る九日の大婚式奉祝の為詩歌文を募集し、之れを印刷して有志に頒たんと目下其の募集に尽力中なるが、加入者は何人にも諾さるゝ由なり。

広告〔明治27年3月5日 第二〇〇号〕

来る九日、大婚廿五年奉祝の意を表せん為、当日午前十時より門前町大光院に於て、左の祝祷会を挙行候に付、各宗御寺院は御参席あらん事を希望す。

諸仏護念経奉誦

般若心経奉誦

逐て参拝諸氏は随意たるべし

愛知仏教会本部

廣告〔明治27年3月5日 第二〇〇号〕

来ル九日、愛知仏教会奉祝場ニ於テ

大婚式奉賀 ノ祝意ヲ表セントス。會員諸氏

ハ当日祝詞携帶御参来相成度候也

尚、同日午後一時ヨリ園遊会相催候ニ付、有志ノ諸氏ハ来ル七日午前中ニ本会事務所へ宛申込ヲ乞フ

愛知仏教青年会

(事務所、宮出町曹流寺内)

愛知仏教会の大婚式奉祝

〔明治27年3月5日 第二〇〇号〕

愛知仏教会の大婚式奉祝は別項特別廣告の如く、来る九日午前十時より門前町大光院に於て各宗寺院出席の上、之れを二班に分ち心経及び阿弥陀経を奉読祝禱せらるゝ由。尚引き続き愛知仏教青年会にては、祝文奉読式を行はるべしと云ふ。

山田祖学氏の赴任

〔明治27年3月5日 第二〇〇号〕

同氏は曾て、当市裏門前町曹洞宗万松寺内に設置なる同宗中学校の教授にて、久しく青年僧侶の教育に尽力せられしが、昨年来同林閉鎖にて閑散の身となり、処々布教中なりしが、今回知多郡地方寺院の輿望にて、同郡内緒川村乾坤院内に設置せし同宗学林の教授に赴かるゝ由。因に同学林は、当春際より学科を改良して、

旧曆二月朔日より開林し着実に授業せらるゝ由。

浄土宗の奉祝会

〔明治27年3月5日 第二〇〇号〕

本月九日午後第一時、門前町阿弥陀寺に於て大婚式を奉祝し、天下泰平靈化無窮を祈禱せんが為め、当市同宗寺院出勤の上、放生会を執行の由。

長松院の大婚奉祝

〔明治27年3月5日 第二〇〇号〕

当前津の同院にては、羅漢講式並に説教等を同日行はるゝ由。

清水梁山氏の演説

〔明治27年3月5日 第二〇〇号〕

去る一日、当市音羽座に於て開会せし同演説は、聴衆凡三百余名にて、氏は例の弁を振ひ、就中浄土宗を破したるが如きは、氏の得意の所と思はる。又今回上奏云々の主意は、日本の仏教各宗は真実の宗教に非ず。独り日蓮本宗（自己の所立）のみ真の宗教なれば、他は邪教云々の主意なりし。又氏は従来僧衣を着し居られしも、今回は羽織袴にて頭髪は例の如く長髪なりし。

堪忍堂の涅槃像

〔明治27年3月5日 第二〇〇号〕

当市中下堪忍堂に於て、来る五日午後二時より八事山主及び各務僧都を請し、鬼頭道恭氏の筆になりし京都東福寺の涅槃像の模写の開眼式を行はるゝと云。

熱田仏教興道会〔明治27年3月5日 第二〇〇号〕

同会拡張の為に、春期総会を去る廿七日に開く。

各宗取締の集会〔明治27年3月12日 第二〇一号〕

来る十五日午後一時より、当市裏門前町総見寺に於て市内各宗取締の集會を催さるゝ由。

神谷大周師の講義〔明治27年3月12日 第二〇一号〕

曾て記せし如く、愈々来る十七日より裏門前町総見寺に於て、午後六時より三日間七十五法を講ぜらるゝ由。

伝東会〔明治27年3月12日 第二〇一号〕

同会より濤聴同氏が東春日井郡小針村二ヶ村出張されたり。又同会にては十九日奉祝会を挙行し、午前八時より会員一同本部なる乾徳寺に集り祝祷されしが、同寺の門頭に壮大なる銀額を掲げられたり。

黄檗宗の奉祝〔明治27年3月12日 第二〇一号〕

去る九日、当市の東輪寺にて大婚奉祝の爲廿有餘の寺院参集し、正午より大仏殿に於て聖寿無量万々歳を祈りしと云。

吉祥講社の説教〔明治27年3月12日 第二〇一号〕

前項御器所村曹洞宗信徒は、従前より吉祥講を組織し、毎月一回

会を催さるゝ由なるが、来る十三日午後一時より説教会を開かるゝに付、水野が出席の筈なり。

支部組織の演説〔明治27年3月12日 第二〇一号〕

愛知郡御器所村各宗寺院には、今回聯合して愛知仏教会支部を組織せらるゝ筈にて、去る七日同村久松寺に於て大演説会を催され、社員広間隆円、水野道秀、及び法雨協会の荻倉耕造氏も出席せられ、参聴者最も多く頗る感動を与へたりき。

銅像鑄造式〔明治27年3月12日 第二〇一号〕

紀伊国那智山に於て、尾濃の大震災及紀伊水害紀念且つ死亡者追吊の爲め、觀音菩薩の尊像を鑄造せらるゝ計画なりしが、愈よ来る廿日より当市門前町性高院境内にて三日間に鑄造せらるゝ由にて、右鑄造中は場所の傍らに法筵を設け誦經せられ、且つ有縁の信者には結縁の爲め参觀拝礼を許さるゝ由。又右鑄造費の内へ五拾錢以上喜捨の方は、法名をも鏤刻せらる筈なりと云ふ。

愛知仏教会大婚奉祝会の景況〔明治27年3月12日 第二〇一号〕

去る九日、当市大光院に於て挙行されし同祝会は、大門前に大仏旗及国旗を交叉し、大婚廿五年奉祝会なる高標を掲げ、午前九時頃より各宗寺院続々出席せられ、定時に至り梵鐘を点じ、盛飾したる仏前に於て、浄土部は阿弥陀經、其の他は心經を奉読せられ了て祝詞あり。退散せしは正午頃なりき。因に当日は、浪越公園

内写真師谷氏の寄進により、出席の各寺院方を撮影され近来なき盛況なりき。

愛知仏教青年会員の奉祝〔明治27年3月12日 第二〇一号〕

予て記せし如く、同会員には当日、愛知仏教会の奉祝式場に於て祝詞奉誦会を行ひ、午後二時より南桑名町大林寺に於て宴会を催されしが、来会者は熱田の会員を始め来賓を併せて五十余名と見受けたり。席定りて濤準備員総代の挨拶あり。来賓高橋順氏の演説あり。中村元亮は幹事の資格を以て一言を述べ、互に杯盤猷酬の間に十二分の祝意と歓を尽し、或は慷慨なる朗吟あり。勇壮なる舞踏あり。或は立て祝するあり、座して談ずるあり。酌満ち食飽き黄昏に及び退散されしは、蓋し当日仏教者の会合中には又比すべき盛会なかりしならん。

西山派に於ける銀婚式奉祝〔明治27年3月12日 第二〇一号〕

同派にては、去九日当市白川町誓願寺に於て、市内及接近の同派僧侶を未明より参集し、午前六時を期し梵鐘を打鳴らして祝意を表し、同七時大衆一同仏祖前にて大般若六百軸を転読し、以て聖上皇后両陛下の聖寿万歳を祈り奉り、式終りて大導師繪本山禅林寺法主清水大僧正の親教あり、参詣満堂にて頗る盛大なりき。因みに同山法主は、目下同寺に戒師として留錫中なるが、来る三十三日の両日、門前町極楽寺に於て御忌大会の導師を勤め終て御親教さるゝ筈なれば、当日は定めて盛大にやあらん。尚ほ引続き翌

十五日、白川町宝珠院の庫裡再建の落成式に臨み終りて、直ちに丹羽郡柏森なる専修院の戒会に転錫の筈。

正福寺の大施餓鬼〔明治27年3月19日 第二〇二号〕

来る廿日午後一時より、同会を行ひ了て近藤疎賢氏及び伝東会員を招き、演説会を開かれ余興として生花の奉納等あるべしと云ふ。

西春通信〔明治27年3月19日 第二〇二号〕

郡内九ノ坪村平田院へ、今回名古屋裏門前町功德院の前住たりし岩山臥竜氏の転住せられしを以て、本月十九日午後二時より歎仏法会を行ひ、兼ねて同寺に安置せる三十三体觀世音の開眼供養を行はるゝ由なり。

田代仏教演説〔明治27年3月19日 第二〇二号〕

愛知郡田代村曹洞宗洞岩寺にては、明後廿一日仏教大演説会を催さるゝ由にて、弁士には早川見竜、水野雷幢、鶴飼祖箴の諸氏にて、又夜会には鶴飼氏が得意の幻灯を映せらるゝ筈なりと云ふ。

吉祥講の布教師〔明治27年3月19日 第二〇二号〕

過日当市に於て発会式を挙行せられし名古屋吉祥講社は、規模漸々盛大に赴き、各地より支部設置を申込ものあれば、更に愛知吉祥講と改称する事とし、又同講の布教師として同宗内重なる

人々へ大本山執事より任命せられたり。其の人名は左に、

野々部至游、水野雷幢、早川見竜、田中見門、山田祖学、佐治大謙、田中懐光

曹洞宗録所標の撤去〔明治27年3月19日 第二〇二号〕

当市裏門前町万松寺門前には曹洞宗務支局標札と同宗録所標札との両牌を掲げ、互に相仇敵視の有様にて其の事務を執り居られしが、一兩日前更に録所の札を撤去せられ、支局員は左も得意らしく、在いは変幻無窮の世中なる哉と或人は物語りぬ。

愛知仏教会の講義〔明治27年3月26日 第二〇三号〕

愛知仏教会の講義は予記の如く、愈よ再昨日より菅原町の浄教寺に於て開始となり、例年の如く盛況にて、初日の聴衆は凡そ五十余名なりしが、遺教経は師が自著の講本あり。希望者へは実価十錢を以て配与せらる。

法会と説教〔明治27年3月26日 第二〇三号〕

当市東田町宗円寺に於て、来る三月廿五日より三日間、見真慧灯両大師の御遠忌を修行し説教を真宗本派の司教船橋了要師が勤めらるゝ由。

法会修行〔明治27年3月26日 第二〇三号〕

当市島田町正覚寺にて、来る三月廿八日より三日間、中祖慧灯大

師の諡号別時法会を修行、説教師は船橋司教。

少年教会講話〔明治27年3月26日 第二〇三号〕

当市菅原町浄教寺内の少年教会は、昨廿五日前十時より南条文雄師を始め広間、早川、箕浦、青木等の諸氏出席講話せられたり。

神谷大周師の講義〔明治27年3月26日 第二〇三号〕

予報の如く、去十九日より総見寺にて、七十五法を昨日より袋町(円通)にて原人論を講せられ、何れも聴衆は満堂の盛況なり。

広告〔明治27年3月26日 第二〇三号〕

来る四月一日午後二時より 於袋町延命院
神谷大周師御出席

仏教 大演説

仏教 勇猛団

仏教会支部発会の概況式〔明治27年4月2日 第二〇四号〕

愛知郡植田村各宗寺院及有志者には、愛国護法の主義を以て愛知仏教会の支部を設け、去る廿八日、同村高田派栄久寺に於て発会式を挙行せられたり。今其の概況を記さんに、同日は門前に大仏旗を交叉し、本堂に演壇を装置し、大瓶花を挿入し、聽て正午十二時会員一同参列誦経あり。続て成瀬恵順、斉藤智昇の二氏祝

詞、次に本部より臨席せし黒田安麻呂、本社水野交々演説ありしが、同日は降雨にも拘らず会員及参聴者無慮八百余名ありたり。亦夜会には泉称寺にて演説会催をされき。

善光寺の開扉〔明治27年4月2日 第二〇四号〕

信州善光寺の開扉に付、当市七ツ寺境内の同寺出張所にては参詣者の便を計り、内陣入の切符及び道中記等を施与せらるゝ由。又来る四月廿八日より例年の如く、灯明迎の参詣者は大曾根の沢祐方に集合の上、二十日間の予定にて出発せらるゝ由。

五重相伝〔明治27年4月2日 第二〇四号〕

来る十六日より廿日迄、安井隆道僧正を請じ東橋町栄国寺にて同会施行。

孝子教会の演説〔明治27年4月2日 第二〇四号〕

一昨夜、大津町光円寺にて全演説を催され、弁士には南条博士、小栗憲一、早川見竜、水野等も出席せられたり。

愛知育英学校の生徒募集〔明治27年4月2日 第二〇四号〕

愛知仏教会にて監督しつゝ、ある当市宮出町永安寺内の同校にては、従来高等小学の程度を以て授業し来り四年以前より既に二回の卒業生を出せしが、今回も男女共に生徒を募集し、又来る四月より脩身科を盛んになす為め育英教会と云へるを設け、有徳の諸

氏を聘して講話を開会し広く傍聴を許すと云へり。

演説〔明治27年4月2日 第二〇四号〕

別項に記せる如く、当市上園町二丁目に於て、去る廿三日基督抜ひの演説会を永井宋太郎の尽力にて開き、併せて仏教幻灯を映出されたり。

広告〔明治27年4月2日 第二〇四号〕

来る八日午前十一時

曹洞宗専 同窓死亡者追吊会
門支校

全日午

後一時 仏教大演説会参聴随意

弁士 同窓会員

發起総代 橘成典 外五名

会場門前町大光院

伊藤琢宗、服部竜門、本田教三、小川友麟、加藤徹玄、横井石峰、村井徳翁、倉地大竺、山田覚道、松原鉄原、青山全明、天尾泰禪、雉本東隣、木村石竜、木野嶺雲、水野玄透、森田漸透、百木常一、及び同窓死亡者一同。(姓名いろは順)
右有縁者へ通知洩モ可有之有志士参詣ヲ乞フ。

広告〔明治27年4月2日 第二〇四号〕

御本山開 帳 四月一日より五月卅日迄、当講中の参詣は四月廿八善光寺 帳 日立有志の御方は、講外の御人にも申込あれば同道致 候也

名古屋市内
七寺境内

善光寺出張所

黄檗宗管長の来臨〔明治27年4月9日 第二〇五号〕

多々良観輪大教正には本山維持資募集の為巡教され、去る廿八日当市下茶屋町東輪寺へ着。去る二日熱田発の汽車にて遠州地方へ向け発錫されたり。

各宗合議所の決議〔明治27年4月9日 第二〇五号〕

一昨七日午後一時より、当市裏門前町総見寺に於て各宗取締の集會を催され種々伝導上の事件を協議せられしか。右に就き近來は種々無稽なる宗義を唱へ愚民を煽動するもの尠なからざれば、此際各宗寺院に於ては互に一致団結して錯らしめざる様注意を促さるゝ由。又右の第一着手として愛知仏教会本部の事業を拡張し郡部各地に全會の支部会を組織し、大に県下の全体に及す事に決せられたりと云ふ。又仏教会監督の当番を、先回の集會にて臨濟宗取締酒井恵遂師、真言宗取締鈴木快秀師、曹洞宗取締温嶽耕堂師に当撰せられたりと云ふ。

吉祥講支部発會式〔明治27年4月9日 第二〇五号〕

全講社は今回、当市内に九ヶ所の支部を設置せられ、昨八日は六号支部は門前町安用寺に於て發會式を挙行せられ大施餓鬼會を修し、續て温嶽耕堂師及本社水野も出席、説教を執行し了て参詣者一同へ供物を配与せられたり。又来る十日には全七号支部の發會

式を松山町竜梅院に於て挙行せらるゝ由にて、全日は羅漢尊供養を修し、續て修証義に依り説教を催さるゝ筈なりと云ふ。

私立曹洞教会の講話〔明治27年4月9日 第二〇五号〕

去る七日は、七小町普藏寺に於て早川見竜氏修証義を講せられしが、又十日白川町大運寺にても午後二時より開講せらるゝ筈なりと云ふ。

真宗講話會〔明治27年4月9日 第二〇五号〕

当市幅下押切町養照寺に於て、来る十六日午後一時より大演會を挙行せらるゝ由にて、当日出席弁士は小栗栖一等学師外数名にて、同学師の弁せらるゝ演題は愚禿抄題下二十四字云々なり。因に記す連船老師は当時美濃地方漫遊中なりと。

講義〔明治27年4月9日 第二〇五号〕

海東郡松葉村賢宗寺住職の舟橋激電氏は同志の者十数名を糾合し、当市裏門前町の宝泉院を教場と定め、一昨七日の午後七時より愛知吉祥講の布教師早川見竜師を請して、連夜因明入正理論の講義を開かるゝと云ふ。

私立曹洞教会〔明治27年4月9日 第二〇五号〕

石切町大運寺内に設置したる全會の第二教場へは、明十日午後二時より早川見竜師が出席して通俗的に修証義を講演さるゝ筈な

り。

各宗取締の集会〔明治27年4月9日 第二〇五号〕

一昨七日、当市裏門前総見寺に於て、当市各宗の取締諸氏には集合され宗務上の事件を協議されたり。

広告〔明治27年4月9日 第二〇五号〕

御本山 開 帳 四月一日より五月卅日迄、当講中の参詣は四月廿八善光寺 日立有志の御方は、講外の御人にも申込あれば同道致候也

名古屋市 善光寺出張所 七寺境内

合同会〔明治27年4月16日 第二〇六号〕

当市総見寺及び禅隆寺内の同会にては、来る廿日午前九時より洲崎橋竹甚方より出船水災死者の為に地藏流しを行はるゝ由。

開眼供〔明治27年4月16日 第二〇六号〕

明後十八日、当市山口町相応寺に於て名古屋西国第三番の札所の観音の開眼供を行ひ、音楽稚子法会の催しある由。

広告〔明治27年4月16日 第二〇六号〕

来る廿一日午後一時より門前町大光院に於て本会の總會を相催し候条、各宗御取締及本会の理事並に会費十日以上御負担の諸君

は、御参席被成降度、此段御案内申上候也。

愛知仏教会本部

広告〔明治27年4月16日 第二〇六号〕

愛知吉祥講廣告

廿七日正午ヨリ
第三号支部 宝町 禅芳寺
廿八日正午ヨリ
第八号支部 花車町 光明院
廿九日正午ヨリ
第九号支部 大曾根町 関貞寺
右の箇所に於て支部発講式挙行候条、講員諸君御参詣被降度候也。

吉祥講世話係

広告〔明治27年4月19日 第二〇八号〕

来る廿一日午前十時より、門前町大光院に於て

岩田周 金玉均氏追吊会 作氏事

右執行候に付、同感の志士は御参詣被下度、尚追悼文等御奉読の方は予め御通知置被下度候。

愛知仏教会本部

弁天祭〔明治27年4月19日 第二〇八号〕

当市松山町慈眼院にては、明後廿日弁財天の祭典を執行され、午

後一時より小松社中より音曲の奉納あるべしと云。

愛知仏教青年会

展観〔明治27年4月19日 第二〇八号〕

松山町安齋院にては、昨日法会を兼ね右書画の展覧会を催されしが、右は同寺の書院五間余の襖に高柳快堂先生の老腕を振はれたる山水の披露を兼ねたる者なりき。

（事務所宮出町曹流寺）

尚賛同諸氏は、其旨鶴重町黒田易公、上園町永井宋太郎、宮出町涛聴同、各方へ来る十九日迄に申込を乞ふ。

晋山〔明治27年4月19日 第二〇八号〕

伊勢飯高郡粥戸村妙泉寺へ、曾て当市宮出町永安寺に寓居されし土井活漸氏が住職し、其の晋山式を去月二十三日施行し、旧来一種の弊風たりし晋山式に酒宴を催す事を改め仏教演説開会されたり。

広告〔明治27年4月19日 第二〇八号〕
四月廿日午後一時より

弁財天祭典

当日は小松社中より音曲の奉納有之候

松山町 慈眼院

授戒会〔明治27年4月19日 第二〇八号〕

愛知郡烏森村曹洞宗禅養寺に於て、大本山前執事北山絶三師を請し、去る十五日より授戒会執行中なりしが、参詣者も多く最も盛會なりと云ふ。

鶯の大会〔明治27年4月20日 第二〇九号〕

来る廿二日、白川町光明寺に於て鶯の大会を開き、併せて諸鳥の売買を為す由。

法会〔明治27年4月20日 第二〇九号〕

今廿日千種村善久寺にて大般若開卷の大法式を行はるゝに付、早川見竜氏及び伝東会員は請に応じて出席、又来る廿三日午後一時より宮出町広徳寺にて羅漢供養を修せらるゝに付、本社の水野は出席すべし。

広告〔明治27年4月19日 第二〇八号〕

来る二十二日於天道山（雨天順延）

春期大運動会

本会々員にして賛同の諸氏は、当日午前十時迄に事務所へ御参集ありたし。但し、弁当は各自持参の事。

展覧会〔明治27年4月22日 第二一一号〕

来月十三日菅原町眠光院に於て、大日本施薬院へ寄贈されし諸大

家の書画を公衆に展覽せしめて分配さるゝ由。其の入場券は橋詰町慶栄寺の同会事務所にて渡さるゝと云。

愛知仏教会の總會

〔明治27年4月24日 第二二二号〕

愛知仏教会の總會は予期の如く、去る廿一日大光院に於て開かれたり。全日は各宗取締及理事何れも出席、第一経済の報告、第二事業の報告、第三全会拡張の方法の協議等にて午後五時散会せられたり。因に来月十三日を期し、本県下仏教各会及有志寺院の大懇話会を催さるゝ筈なりと云ふ。

金氏の追吊会

〔明治27年4月24日 第二二二号〕

金氏の追吊会は、去る廿一日正午十二時大光院に於て挙行せられたり。全日は本堂の正面に靈牌を安置し、供物を備へ各宗取締及各宗寺院出席の上懇切なる誦經あり。了て参詣者一同へ供物を配与せられ、就中鵜飼祖箴氏の如きは態々自坊小幡村より参席せられたり。

総免職

〔明治27年4月24日 第二二二号〕

当市本願寺派別院にては、過般組内職員に関する紛議ありしが、其の結果として西条、本多、織田等の諸役僧は孰れも其の職を免ぜられたり。

善光寺参り

〔明治27年4月25日 第二二三号〕

当市七ツ寺、善光寺にては、愈々来る廿八日出立にて信州善光寺へ参詣せらるゝに付、同行を申込み来る廿七日の夕尅迄なりと云。尚ほ独にて参詣する者にも道中記及内陣入の切符を施さるべしと云。

植田の演説

〔明治27年4月25日 第二二三号〕

愛知郡植田村全久寺に於て、明廿六日午後一時より支部第二回の演説を開かるゝに付、愛知仏教会本部より社員広間、水野の二氏が出席の筈。

吉祥講第二部の発会式

〔明治27年4月26日 第二二四号〕

当市東瓦町威音院に於て、来る廿八日同講の発会式を挙行し、講員の為めに大施餓鬼を修行せらるゝと云ふ。

熊谷愛知病院長の演説

〔明治27年4月27日 第二二五号〕

再昨廿四日、尾州知多郡半田町順正寺に於て、赤十字社の幻灯会に参席し一場の演説を成せり。

吉祥講二号支部発開

〔明治27年4月27日 第二一五号〕

明二十八日午後一時より、瓦町威音院に於て発開式を挙行せらるゝに付、同講布教師山田大啓師が出席説教され、又全日は清流齋社中より真道流挿花の献納あるべしと云。

日蓮宗演説の景況〔明治27年4月27日 第二二五号〕

去る二十四日午後七時、当市南小川町真如院にて開会されし同演説会は、聴衆は凡百名斗りにて数名の弁士続々登壇し、孰れも自宗外の宗教を誹謗せしゆへ、傍聴中より攻撃もありしが、無事に十一時頃閉会したり。又同夜は小倉文承師は出席せざりしを以て、代理として大原紹隆師が出席したり。

仏教大演説会〔明治27年4月27日 第二二五号〕

本日午後六時より宝町禅芳寺に於て大演説会を催さるゝ由にて、出席弁士は涛聴水、水野雷幢、早川見竜の諸氏にて社員水野も出席の筈なり。

広告〔明治27年4月27日 第二二五号〕**愛知吉祥講廣告**

本月廿七日正午より第三号支部

宝町 禅芳寺に於て

同二十八日午後一時より第二号支部

瓦町 威音院に於て

同廿八日正午より第八号支部

花車町 光明院に於て

同廿九日正午より第九号支部

大曾根町 関貞寺に於て

右の箇所に於て支部発講式挙行候に付、講員諸君は御参詣被下度候也。

吉祥講世話係**施業院**〔明治27年4月28日 第二二六号〕

同院は、来る廿九日午後七時より東田町宗円寺にて水野道秀、黒田安丸、荒木諦善、原兵一郎氏の演説を為す由。

植田支部演説の概況〔明治27年4月28日 第二二六号〕

一昨日、愛知郡植田村支部に於て催されし演説会は、門前に仏旗を交叉し、本堂の正面に演壇を設け、生花を挿入し午後二時開会、坂井祖仙氏開会の旨趣を述べ、次に水野、広間の二氏演説、全日は降雨なりしにも拘らず、参聴四百余名と見受けたり。猶全支部会は漸次区域を弘め、平針地方へも及す予定なりと云ふ。又全地方は戸毎に仏教会の門札を貼付せられたり。

吉祥講支部の発会式〔明治27年4月29日 第二二七号〕

当市吉祥講第五号支部古渡町東海寺に於て発会式を挙行せらるゝ由にて、全日説教師として永平寺監院上野瓶城氏が臨席せらるゝと云ふ。又本日午後一時より大曾根関貞寺にて、第九号支部の発会式、早川見竜師及本社の水野も出席の筈なり。

禅芳寺法会の概況〔明治27年4月29日 第二二七号〕

一昨日、宝町禅芳寺に挙行せられし吉祥講第三号支部発会式は、降雨なりしにも拘らず参詣者内外に溢れ、導師は大光院主に長者町有志者より音楽の奉納あり。最と殊勝なる法会なりしと。

飯田道一氏の演説〔明治27年5月1日 第二二八号〕

氏は渡天の目的を、今一日より中島郡稲沢町地藏堂にて演説する由。

御消息下付〔明治27年5月1日 第二二八号〕

東田町大円寺内に設けある法栄講へ、今回御消息下付ありしに付き、本日午後一時より御紐解に統て若林随縁師の説教等あり。

授戒会と説教〔明治27年5月1日 第二二八号〕

西春日井郡金城村大字東志賀安栄寺に於ては、来る五日より授戒会を修行し、戒師は当市門前町大光院住職龍桑嶺師を請し、説教には宗侶社会に有名なる小寺黙音師が出席さるゝ由。定めし盛なる事ならん。

老婆殺しの公判〔明治27年5月2日 第二一九号〕

御嶽講中名古屋市東柳町の岩田吉蔵外三名が一人の老婆を殺せし嫌疑事件は、名古屋地方裁判所にて無罪の宣告を受けしも立会検事の控訴する処となり、一昨日名古屋控訴院にて公判を開廷したり。

吉祥講支部発開式の概況〔明治27年5月3日 第二二〇号〕

当市東瓦町威音院に於て挙行せられし同第二支部の発開式は、法鐘の響きを相図に一同本堂に整列し、石川流竜氏の発開の辞、尾

関従義氏の祝詞あり。統て両祖諷経、大施餓鬼、涛、山田両師の説教あり。参詣四百余名なりしと云ふ。▲全日花車町光明院に於

て挙行せられたる全会は、下長者町有志者より音楽の奉納ありて奏楽の間に法会を修せられ、統て早川、水野両氏の説教にて参聴五百余名と見受たり。▲一昨廿九日大曾根町関貞寺に於て挙行せられたる第九部の発開式は、寺院惣代水野暁山氏の祝辞、世話係り惣代鈴木定吉、信徒惣代石黒錠太郎祝詞あり。統て羅漢尊供養を修し了て、早川、水野の両師説教あり。参詣者五百五十余名と見受最も盛会なりき。因に記す全宗は、世人の知らるゝ如く両山の紛擾は未だ全く融解せざるの姿なるも、却て在家の全宗信徒は各処祖恩報謝の法会を営み、斯く至る所に盛会を見るは全宗の爲めに喜ばしきことなりき。

追悼〔明治27年5月3日 第二二〇号〕

過般大光院に於て催されし曹洞宗元専門支校の同窓死亡追悼会には、大光院主及び水野雷幢、早川賢讓、野田道環、山田活禪、佐治大賢、松本梅秀氏等の悼文あり。又山田大啓、早川見竜、水野雷幢氏の演説もありたりと。

妙心寺管長の出立〔明治27年5月4日 第二二二号〕

一昨日、栄町の山田屋へ投宿されし今川貞山師には、昨日岐阜へ向け出発せられたり。

広告〔明治27年5月4日 第二二二一号〕

来る六日午前十時 蒲焼町真光寺にて
 仏教少年 三周年記念式
 教育会

全日午後 仏教大演説
 二時より

仏教少年教育会本部

衛生隊演習〔明治27年5月5日 第二二三号〕

当師団にては同演習を行はるゝに付、南小川町の法華寺及本住寺を宿所に充てられしも、本住寺は差間の為に断りしと云。

天籟余韻序〔明治27年5月6日 第二二三号〕

師諱即一、字鼎三、号天籟、文化二年正月廿八日生于尾州猪子石村、幼而穎異、夙慕仏乘、年甫十一、拜白鳥洞外禪師祝髮受具、及長、游方歴叩磨磚、回天、黄泉、風外諸師、辛參苦学者積年、復帰白鳥、入大潜和尚室、終得伝法印記、乃出住六師邨觀音寺、少焉転名府福寿院、又移山崎黄竜寺、当時江湖雲衲望風仰、到忽忽為一叢林云、安政六年遂住於白鳥法持寺、為大潜和尚嗣、実二十八世住持也、師從是応諸刹之請、遍行法施徳望冠一宗、明治二年為越山西堂、董督衆衲、奉事祖廟、數歳、次為執事、大釐革諸規、興起宗風、六年任大教院巡教師、補權中教正、先是再建遠州秋葉寺、故以師為中興祖師、天資朴実、洒然有古徳風、老後退隱城南清水里、然日以講仏典祖録諄々誘後進為務、実稀世老尊宿

也、廿五年十一月、師感微恙、二十八日、端坐示寂、留龕七日、風貌如生、道俗哀痛、遐邇会葬者數百人、掩土塔白鳥山、世寿八十六、僧臘七十六、自像贊曰、禪板蒲団為益友、春花秋月是良朋、更無心法向人説、一任他呼百不能、 参学 佐々部喬松子謹誌

教会〔明治27年5月6日 第二二三号〕

当市七小町曹洞宗普蔵寺にて、来る七日正午より羅漢尊供養を修し、続て早川見竜師、水野道秀師の説教ありと云ふ。

発講〔明治27年5月6日 第二二三号〕

来る八日正午より門前町安用寺に於て、曹洞宗吉祥講第一第六支部聯合発講式を挙行し、大施餓鬼会及説教をも勤めらると云ふ。

広告〔明治27年5月8日 第二二四号〕

来る八日正午十二時より 門前町安用寺にて
 聯合発講式

並に 大施餓鬼会及説教

吉祥講 第一支部
 第六支部 世話係

法会と説教〔明治27年5月9日 第二二五号〕

当市駿河町伊藤鉄治郎別宅に於て、真宗両大師の法会を来る十日

より三日間修行し並に説教あり。司教船橋了要師なりと。

高田派別院〔明治27年5月9日 第二二五号〕

当市橋詰町高田派別院内の敬置式は、従来真宗の宗制に不適當にてなし来りしが、今回大に改正し宗規に違はず施行し、且本堂書院の修覆も整頓し、尚今度新築したる経蔵は阪文四郎氏の寄付、其内に納むる一切経は伊藤忠左衛門氏の寄進なりと。又来る八、九兩日は祝意の爲め慶讃会を執行し、十日より十五日迄は前住上人の御年忌を執行、又十四、十五の兩日は常磐井法主參堂、十六日は同法主親教に付、当国及び近国の信者は參詣せらるゝに付、定めて賑はふ事ならん。

少年教会の講話〔明治27年5月10日 第二二六号〕

当市菅原町浄教寺内少年教会は例月第三の日曜に開会の筈なるも、本月は講師南条博士の都合に依り、第二日曜即ち来る十三日午前九時より開会せらるゝ由。

授戒会〔明治27年5月10日 第二二六号〕

当市松山町安齋院に於て、来る十日、十一日の兩日法脈会を修行せらる由なる全法会は、本月にて終了すべしと云ふ。

聯合〔明治27年5月10日 第二二六号〕

当市曹洞宗信徒の組織せる吉祥講第一部第六部の聯合発会式は一

昨日舉行せられしが、近傍寺院二十余ヶ寺參集、両祖諷經、大施餓鬼会等あり。續て温嶽師及び本社の水野の説教ありて最も盛会なりしと。

施薬院の演説〔明治27年5月10日 第二二六号〕

来る十五日午後七時より当市中下新道町法蔵寺にて、又十七日午後七時より日置の敬円寺にて孰れも同演説会を開会。

刃傷〔明治27年5月11日 第二二七号〕

当市矢場町に晩年寺と云へる騒動醜某寺の住職厄介禪といふは、四十の坂さへ越へたる身分にも似ず、水野菊といふを梵妻として寺に飼ひ居きしのみならず、尚当市日の出町一丁目なる柴田とく(三十二)と五、六ヶ月前より通じ居しに梵妻の知る所となり、右のトクが同寺に至りしを伺ひ、キクは矢庭に短刀を以てトクに切り付け、額に重傷を負はせたる騒ぎに同寺に在りし者共は馳せ付、キクを引き分けしにより幸に命に別条は無かりしも、右の始末を其の筋の探知する所となり頃日、検事へ具申せられし由。

仏教少年教育会〔明治27年5月11日 第二二七号〕

名古屋市菅原町浄教寺に設立したる同会は、今度会長に吉谷覺寿師に、特別講師を南条文雄師、小栗栖香頂師に、通常講師に広岡隆円師、箕浦現遵師、青木元亨師に囑托し、毎月第三日曜日をして月例会を開く事に決せり。本月は南条文雄氏の当番にて、来る

十三日に開会の由。

小室代議士と分離派〔明治27年5月12日 第二二八号〕

本県選出の代議士小室重弘氏には過般上京されしが、其の後曹洞宗分離派員伊藤覚典氏（当市宮出町照運寺住）の訪ふ所となり、其の後度々往復ありしやに聞き居しが、果せる哉前項の如く能山派の演説会に出席せられたり。

説教並に演説〔明治27年5月13日 第二二九号〕

当市南桑名町豊本説教所にては、明日午後六時より南条文学博士の説教並に演説あり。

説教〔明治27年5月13日 第二二九号〕

来る十四、十五の両日、当市東田町の大円寺内の法栄講に於て、三等勸令使広瀬祐念氏説教開筵の由。

火柱騒ぎ〔明治27年5月13日 第二二九号〕

去る八日午後十一時頃、当市横三ツ蔵町監獄所前の南側の閑所の行当りに火柱が立つと騒ぎ出し、町内中を叩き起し、俄に秋葉三尺防を祝り徹夜してお託をやらかし、猶翌朝熱田の羽休三尺防へ町内中が参詣をなしての次の夜もお篝を焚き火事は、一切ピリ〜ケンノンソワカと呻々云つて居らるゝ火防の注意は至極だが、家内安全も又必用なり。疑心暗鬼に魁入らるゝこと勿れ。

施薬院拡張演説〔明治27年5月15日 第二三〇号〕

施薬院拡張演説は、明日午後七時より当市新道町法蔵寺に於て、開会弁士は柴田鉄吉、荒木諦善、原兵一郎、水野道秀の諸氏なりと。

羅漢供養と説教〔明治27年5月15日 第二三〇号〕

当市白川町曹洞宗大運寺にては、今日午後一時より組合寺院廿余ヶ寺相集り、例年恒忌の法用として同寺に秘蔵しある十六羅漢の画像を供養し、終て水野道秀、早川見竜の両氏が出席して修証義を通俗に布演せらるゝ由。

供養〔明治27年5月15日 第二三〇号〕

当市高田派別院にては、兼て伊藤忠左衛門、阪文四郎両氏の寄進に成りたる経蔵供養を一昨日執行せし由にて、参詣人夥しくいと盛大なりしと。

釈尊降誕会と説教〔明治27年5月15日 第二三〇号〕

仏教青年和共会にては、本日午後より釈尊降誕会を執行し、並に同時より仏教演説会を開く由。

閉口弁士（注告書による）〔明治27年5月15日 第二三〇号〕

再昨日、当市菅原町浄教寺に於て開会されし少年教育会の弁士某が登壇、二三口弁を弄せんとすると掛り員の某が壇上に近く寄り

付き、一の注告書を示して下壇せしめしとは如何なる注告書にて其の弁士とは誰の事にや。

大須観音堂の再建〔明治27年5月17日 第二三二号〕

委員長堀部勝四郎、監督白石半助、平子徳右衛門、会計係宮地茂助、金森清兵衛、牧野作兵衛、黒田茂助等の諸氏を初め五十余名の委員は、毎月二三回づゝ集会して頻りに再建を取急ぎ居らるゝ由は、屢々聞処なるが何分大須は他に比類なき繁昌の地なれば、第一火防の都合を斗り、此際一層境内の風致を改良して、行々は名古屋市の一美観を添ふるの考案より、先づ観音堂の位置を転じ南向にする等の説ありて種々に計画をなしたるが、如何せん地所狭隘にして四方の距離十分ならず、完全の見込も難相立無掘従前の場所に再建する事に取極め、既に一昨日も委員諸氏は深更に至るまで種々の協議をなし、弥々近日より地築に着手する事に決したるに付、何れ市在一般の取持を頼花々敷地形築ら初めるといへば半纏、又は手拭なぞ掛を揃へて出掛る向きもあらん。又旭廓は大須との関係所謂唇齒の間柄にして、常々観世音の利益を受ける事多ければ再建の為に一方、尽力するは勿論の事ながら芸妓連は一同揃ひて、今度の地築に手伝に出掛る催しをなし居るよし、定めて一層の花を添ふる事ならん。

法会と説教〔明治27年5月18日 第二三三号〕

当市裏門前町曹洞宗宝泉寺にては、明日大施餓鬼会を執行し、続

て全宗の早川見竜、水野道秀の両氏、修証義を講述せらると云ふ。

説教〔明治27年5月19日 第二三四号〕

当市東田町大円寺内の法栄講に於て、来る十九、廿の両日、有名なる宮部円成師の説教ある由。

仁王門の再建〔明治27年5月20日 第二三五号〕

大須観音堂の地形築に着手する由は、既に頃日も報導せしが、今亦聞処によれば、門前町は仁王門の再建を一手に引受け、昨年の春已来、上下両町にて再建委員三拾名を撰定して専ら資金募集等に尽力をなし、殊に先般来委員一同は自費を以て屢々泉竹楼に集会して種々に設計をなし、絵図面の如きも数種を撰み漸く一定の絵図も出来上り、且つ資金の積立も追々出来したるにより、本月十五日には上下両町全体の総集会を開き一同の意見を問ひたるに、孰れも委員の設計通り大賛成にて異議なく決したるにより、更に工事専任の係員十名及び会計主任四名を撰定し、猶其他の諸般を協議決したるよしなれば、是又不遠工事に着手すると云ふ、誠に奇特の事なり。

観世音開眼式〔明治27年5月20日 第二三五号〕

今般有志者の發起にて、尾濃震災紀州水災死亡者紀念の爲め、御丈丈の那智山御前立を当市門前町性高院境内に於て鑄造中の

処、最早出来に付、本月廿一日より五日間雨天順延にて追善会を施行に付、有志者は姓名法名を御申込まば蓮座に彫刻せらるゝ由、又廿一日、廿三日、廿五日は信者の申込に依り、兒子音楽ミシンン楽投餅等の寄付ある由。

鎮守祭〔明治27年5月24日 第二三七号〕

当市橋詰町円頓寺鎮守の鬼子母善女祭典を、来る廿七、廿八の両日執行し、千卷陀羅尼の誦経並に法華寺住職吉川日光師の説教ある由。

死去〔明治27年5月24日 第二三七号〕

元当市大谷派普通学校の教諭にして英漢学舎の舎主たりし杉山鎌次郎氏は、肺患の為死去せらる。

入仏式〔明治27年5月24日 第二三七号〕

当市上宿前之川町大谷派説教場にては、従来の建物狭隘なるにより、先頃より改築の為め同地方の信徒等奔走尽力せられし結果により、弥々落成せしに付、来る廿五、廿六の両日には大盛なる入仏式並に開眼会を施行する由にて、既に有志者よりは稚児の申込も百余名ありと、又両日は当市大谷派別院輪番の説教を勤めらるゝ由。

施薬院拡張演説〔明治27年5月27日 第二四〇号〕

施薬院拡張演説は、明日当市橋詰町慶円寺にて、又明後日は熱田町蓬座にて、孰れも午後七時より開会す。弁士は原兵一郎、柴田鉄吉、水野道秀、荒木諦善の諸氏なり。

医王寺の怪合〔明治27年5月31日 第二四三号〕

当市袋町医王寺にては、近来毎日の様に午後五時頃より六、七十名の男女相会し頗る秘密に何事かを談じ居る由なるが、聞く所によれば、其の会合する目的といふは一種異様の安心を沙汰し、御浄土参りの仲間入りを披露する者の由にて、俗に光明安心とか拝ませ安心とかの連中なりとか、然るに独り怪しむは医王寺なり。同寺は真言宗なるに、其の寺に於て真宗の安心を沙汰し、又其の連中へ仲間入りせし披露の宴を開かするなど甚だ奇怪千万なるが、それは少し子細ある事の由なれば、逐て探訪の上再録すべし。

施薬院賛成者〔明治27年5月31日 第二四三号〕

大日本施薬院へ賛成せられし人は正三位辻新次、従五位犬飼殿鷹、従四位子爵小笠原長育、名古屋市会議員岡谷惣助、岡田良右衛門、服部小十郎、鉄砲町山内勘助の諸氏なりと。

施薬院治療施薬の手續き〔明治27年5月31日 第二四三号〕

大日本施薬院に就て施薬治療を乞ふ者の身元証明に關し、予て柳

本市長へ同院より出願せし処、今回各町衛生組合長会議にて種々審議の上、同組合長に於て証明することを承諾せられしと。然らば今後同院の施業施療を乞ひたき人は警察官、各町衛生組合長の証明を経て申込まるべし、一寸御注意迄。

観世音開眼式〔明治27年5月31日 第二四三号〕

予て震災水害等の死亡者追福の爲め、当市の有志諸氏発起となり、門前町性高院内一行院に於て那智山観世音の銅像を鑄造せられしにより、其開眼式を去る廿六日挙行せられたり。当日は天台宗僧侶十余名出席にて大施餓鬼会を修行し、近傍町内旭廓等よりは稚児の練出し奏楽詠歌の奉納もありて、近来稀なる大法会なりしと。因に鑄造法要等は、専ら世話人執事の尽力一方ならざりしと。尚ほ五日間程結縁開扉供養ありて、同寺及び三十三観世音縁起等詳しく説明せらるゝ由。

一柳の支店〔明治27年5月31日 第二四三号〕

当市住吉町の同葬具店にては、今回京都、岐阜及び当市の橋町に支店を設置し、葬具は勿論紅灯の賃貸業を益々拡張せらるゝ由。

報恩会〔明治27年6月3日 第二四六号〕

来る四日より八日迄、当市橋詰町円頓寺に於て三省院を請し説教を開筵し、尚来る六日より妙経読誦報恩会を施行する由。

医王寺は席貸屋か〔明治27年6月3日 第二四六号〕

雑 報

過日の本紙に当市袋町の医王寺にて光明安心者の集會を催す由掲載せし件に付、同寺より左の正誤ありしが、シテ見ると同寺は席貸屋にや。

拜啓陳ば、当寺は是迄集會等には往々席を貸与致来候事は能く人々の知らるゝ処に候。然るに貴社新紙第百四拾三号を以て、過日来之集會に当寺に於るも關係有之様御記載相成候えども、殊に当今住職も不在に付、右集會に毫も關係無之義に付、正誤相成度此段御依頼申上候。

医王寺留守居

明治廿七年六月一日 浅井得直印

能仁新報社御中

説教〔明治27年6月5日 第二四七号〕

去る一日より当市門前町西別院へ出張せらるべき司教舟橋了要師には、本山教用の爲め代理を差し向けられしが、愈々本日より同院へ出張し説教せらるゝ由。尚ほ又た当市菅原町浄教寺に於て、来る五日より越前の甘蔗普薫師の説教ありと。

吉祥講説教〔明治27年6月6日 第二四八号〕

来る八日午後一時、宮出町曹流寺に於て吉祥講の説教及び講員先祖の追善会を修せらる。説教師同講布教師諸氏なりと。

真宗講話会々長拝請允諾披露式〔明治27年6月6日 第二四八号〕

真宗講話会々長拝請允諾披露式は予記の如く、過る三日午後二時押切町養照寺に於て其式典を挙行し、一柳、富田、小原の諸氏式辭祝文を朗読し、次に全会教師牧野神爽師は、今度宏徳深慈なる撰光院大谷勝尊殿下を会長に推戴す。漸くにして允諾を辱ふするに至りしは、尤も相慶し相賀すべしとの祝言あり。次に真俗相資の宗義を益々躬行宣流せんとの一場の演説あり。了りて幹事等の諸氏一同洲崎橋畔金城館へ赴き大懇親会を開けり。其模様を略記せるに、玄関には六金日章の二大旗を交叉し、会名を染抜きたる球灯を吊し、種々の装飾を為したり。午後七時一同着席。最初に富田政二郎氏開会の趣意を弁し、次に一柳智泉氏の祝辭、原兵一郎氏等の演説あり。觀声湧くが如く頗る盛会なりし。此日小林康任師、横井前代議士、其他の豪商紳士会する人数十名、同じ如此全会が昌運に至りしものは、牧野神爽師の与りて多きに係ると云ふ。

吉祥講の講義〔明治27年6月7日 第二四九号〕

今七日午後一時より、七小町普蔵寺に於て修証義の講筵を開かれ、亦八日午後二時、安用寺に於て早川見竜師出席、修証義を講ぜられ、亦十日午後二時あり上宿泥町周泉寺にて水野道秀師出席、講話を挙行せる筈なりと云ふ。

落雷〔明治27年6月7日 第二四九号〕

一昨日、西春日井郡金城村大字兒玉觀音寺本堂南方庇へ落雷せし為め、雨戸の破毀せしのみにて人畜には異状なし。

広告〔明治27年6月10日 第二五二号〕

六月十日午後一時、宮出町曹流寺内本会事務所に於て総会を開設す。委員諸君必ず出席を乞ふ。

愛知青年会
仏教青年会

法会と説教〔明治27年6月12日 第二五三号〕

当市松山町慈眼院に於て、来る十三日宗祖承陽大師の法会及野々部至游師の説教を、又来る十五日宮出町永安寺にて羅漢尊供養及野々部師の説教を営まる。

竜泉寺の後住〔明治27年6月12日 第二五三号〕

過般死去せられし同寺の後住に、当市東田町円教寺の住職が転ぜられ、頃日仮晋山式を挙行せられたり。

広告〔明治27年6月13日 第二五四号〕

吉祥講 第九号
支部 例月法要
来る十五日午後一時より
大曾根

関貞寺に於て

古谷日新師の来名〔明治27年6月14日 第二五五号〕

昨日来名、小川町妙本寺にて昨今の両日説教を行はる。

広告〔明治27年6月14日 第二五五号〕

吉祥講 第九号 例月法要
支部

来る十五日午後一時より

大曾根

関貞寺に於て

学場〔明治27年6月15日 第二五六号〕

雑報

当市東別院に於て、本月一日より三十日間例の通り開設せられ本講は、存覚上人の著決智抄と云ふ真宗仮名聖教中の書にて、天台、日蓮両宗へ対して著されし者にして、当国内佐屋村心力寺住職海老源静観擬講之を講述せられ、副講は唯識三類境選要にて足立学師之を講述せらる。本場は当国正副住職等寺務多忙にて大学寮に夏安居なり難き者の為に設くる処にして、宗内学齡の者及び俗輩は聴講を許さず。係員は日々斡旋の勞をとられ、聴衆も当年は殊に夥多にして日夜勉勵の由。

談話会〔明治27年6月15日 第二五六号〕

同別院門前会所にて、已に去る八日、九日第一次を開かれ、来る十七日、十八日第二次を開かれしが、右は同派有志の僧侶の発企

〔能仁新報〕よりみた名古屋の仏教（五）

にて、青年の弁士を育成する見込なりと云。

広告〔明治27年6月15日 第二五六号〕

来る十七日午後一時

大布薩会執行

松山町

安齋院世話人

広告〔明治27年6月15日 第二五六号〕

十八日午後一時より

吉祥講発講式

東枇杷島

清音寺に於て

広告〔明治27年6月15日 第二五六号〕

吉祥講 第九号 例月法要
支部

来る十五日午後一時より

大曾根

関貞寺に於て

少年教会〔明治27年6月16日 第二五七号〕

当市菅原町浄教寺に於て、来る十七日午前九時より同会本部長吉谷覚寿師の講話を開かる。

説教〔明治27年6月16日 第二五七号〕

目下三河を巡教中なる甘蔗普薫師には、再び菅原町浄教寺に來り、六月廿日より説教。

名灸医〔明治27年6月16日 第二五七号〕

過般出張せし中風一切其他諸病に即効ある大和光明寺術伝の灸医真辺氏には、來る廿日より十日間菅原町浄教寺に出張すべしと。

上棟式〔明治27年6月16日 第二五七号〕

当市東橋町日蓮宗首題寺にては、荒尾和尚住職以来本堂玄関等を新築し、庫裏妙見堂を修覆し、大に旧觀を改めしが、尚前年震災の為に潰倒せし表門を、本派別院の正門に擬して建築せんとし、種々奔走の処幸に檀徒等贊助ありしにより、昨年八月下旬、手斧初を為し工事に取懸りし処、今回落成せしを以て、本月十六日より五日間、万卷陀羅尼音楽種子法要を修行し、説教師は三省院師を招聘して、浄財寄付者の家運長久子孫の繁栄を祈禱し、結日には上棟式を施行し、且つ擲餅の余興あるべしと云。

広告〔明治27年6月16日 第二五七号〕

十八日午後一時より

吉祥講發講式

東 枇 杷 島

清 音 寺 に
て

広告〔明治27年6月17日 第二五八号〕

特 別 廣 告

來る六月十七日午前九時より菅原町浄教寺に於て、

定期講話開會

講師 本 会 吉谷覺寿師
本部長

愛知仏教少年教會

法会と説教〔明治27年6月17日 第二五八号〕

桜町本遠寺別院に於ては、本月廿一日より廿五日迄眼病救護、行学院日朝上人の御正当會に付、報恩の爲め法華経壹百部を誦誦して大法会を修行し、併せて三省院師には説教を勤めらると云ふ。

慈善音楽会概況〔明治27年6月19日 第二五九号〕

一昨日袋町医王寺に於て催されたる全會は、小松景和氏始め市内有名の音曲師匠出席し琴、箏、小弓、尺八、三弦唳々相ひ和し、誠に盛會なりき。全日愛知育児院の養児十三名は会場へ列して、社員水野の紹介にて來會者一同に挨拶をなし、夫れより慈善的の演説ありしが、來聴者は孰れも玩是なき兒童の顔を眺め、徐に感涙を催したりと。又同日は同院の役員中にも各務、森井、高田、西村、鈴木の諸氏は最も斡旋尽力せられたり。

法要〔明治27年6月20日 第二六〇号〕

南伏見町高野山の出張所にては、来る二十一日午後三時より諸人安全亡者追福の爲め土砂加持の大法要を修し、当日は取田馨蓮女外数十名の明清楽合奏、名和君子外数名の吉備楽等もある由なれば、定めて参詣人も多く盛大なる法式なるべし。

合同会〔明治27年6月23日 第二六三号〕

例月開かるべき裏門前町総見寺の合同会は、本月は導師関無学禅師の羽後へ巡化さるゝに付、今月は休会して、来る七月廿四日に開かるべしと云。

講義〔明治27年6月23日 第二六三号〕

浄土宗西山派の僧侶なりとか称し、漫りに真宗の安心を沙汰する実語教会撲滅の爲、昨廿二日より廿六日迄、当市下茶屋町の光道館に於て竜華空音氏を聘し、講義を開くべしといふ。

正誤〔明治27年6月24日 第二六四号〕

前号の能仁に掲げし当市裏門前町総見寺の合同会は、本月は導師関無学禅師巡化の都合にて休会の旨記せしが、右は全く誤聞にて、合同会は例の通本月開会さるゝ由にて、大導師の親臨は来月廿四日迄延引に付茲に訂正す。

竜華空音氏〔明治27年6月26日 第二六五号〕

実語教会の安心破折の説教を、来る廿七日午後七時より橋詰町の慶栄寺にて行はるゝ由。

委托金消費〔明治27年6月27日 第二六六号〕

当市門前町善篤寺住職桜井磨軀は、委托金消費非現行にて、検事よりの令状を受けたりと。

亀鑑〔明治27年6月27日 第二六六号〕

当愛知郡御器所村横井覚右衛門（当年四十五、六）は、目下吉祥講の爲に尽力せらるゝ曹洞宗の一信徒なるが、幼より性至孝家財産に富み、曾て官撰戸長をも務められしが、其の德行一村の模範とすべき者なりとて、村民挙げて称し居る由。好亀鑑の人と云ふべし。

師恩を感謝す〔明治27年6月29日 第二六八号〕

目下当市菅原町浄教寺に在て日々教化に従事し居らるゝ甘蔗普薫師は、曾て基督教の感化を受け、其の教徒の一人となりし当市和泉町武山春子の爲に唯識大意を講述せられしに、春子は大に語得悟する所ありしと見え、頃日左の一書を送りて師恩を謝せしと云。

今や和上の膝下に侍し薫陶を受くるの日、將に一日ならんとす。妾の心意濛朧として自失するが如く、千思万慮交々胞裡に

泛び制せんと欲して制し得ず、故に一書を呈し候。嗚呼和尚は妾の不肖を咎めず、懇篤の薫誠を以て迷へるを覚し、死するを活し、憂悶忽ち消散して羽化し仙境に至るの思ひを為しぬ。是実に和上の鴻恩天地も容るゝに足らざる所と感喜措く所を知らず。……是れ如何なる親縁のあるありて此に至りしかと思へば、転慕念の去らざるを如奈せん。嗚呼妾は和上の為に活を得たり。必ず死あらざる可らざるなり。和上希くは永く不肖を捨てず、薫育の労を吝むなくんば、何の悦か之れに如かん。今分袖訣別に際し、遷流無常再開の期し難きを思念し、唯和上の安寧を祈り、聊か紅涙数行の裡に謝状を呈す。

法話開会〔明治27年6月29日 第二六八号〕

来る七月二日より三日の間、当市菅原町浄教寺に於て慚愧講中の冀望に因り、甘蔗普薫師が法話を行はる。

如龜として靈芝生ず〔明治27年7月1日 第二七〇号〕

処は当市南小川町正福寺内に、頃日五基の靈芝生じ、閑客杖を曳て訪ふ者多しと。

熱田仏教青年会〔明治27年7月1日 第二七〇号〕

熱田仏教青年会は会員を募集せん為、去る廿七日山崎村黄竜寺に於て派出演説を為し、弁士は伊藤観勇、浅井泰山、外山圭悦、村上悦堂の諸氏にて、満堂立錫の余地なき程の聴衆なりし。

信長忌〔明治27年7月3日 第二七一号〕

来る四日（旧六月二日）は、例により裏門前町総見寺に於て信長公の祥忌を執行せらるゝ由にて、当日は献納の挿花数十瓶あり。又同寺の什宝は、当日に限り庶人の参観を許さるゝ由。因に曾て能仁に付録とせし韋駄天尊の原幅も、当日は陳列せらるべし。

曹洞宗分離派會議〔明治27年7月4日 第二七二号〕

同宗の分離派にては、来る八日、九日の両日、関西地方の分離派寺院を集め、大會議を当市梅川町の長栄寺に開くべしと云。

町内有志者の研究部発会〔明治27年7月4日 第二七二号〕

当市上園町なる愛知仏教青年会の有志者には、来る四日に中央研究部といへるを設け、其の発会の為に午後六時より車の町至誠院に於て、水野道秀氏外数名の弁士を聘して演説会を開くべしと云。

曹洞宗分離派の運動〔明治27年7月6日 第二七四号〕

同宗能山派僧侶檀信徒は、嚮に東京に於て関東僧俗懇話会を開き、爾来数ヶ所に政談演説を催し、政府の処置を難し分離派の勢焰を高めんと種々に奔走されしが、今又地方運動に着手する事となり。奥羽北陸は仙台に、関西は名古屋に中央部を置き、漸次各地に岐れ運動する由にて、当市の如きは来る八日、九日の両日、梅川町長栄寺に於て能山派関西僧俗大懇話会を開き、能山派の覚

悟する処を発表することに決定し、各県の有志発起人より夫々案内状を發したる由にて、両日共午後七時より劇場に於て曹洞宗問題政談大演説会を開き、弁士は前代議士等数名出席する筈なりと云。

吉祥講員の本山参拝〔明治27年7月7日 第二七五号〕

当市曹洞宗信徒の組織せる吉祥講社は、本年全宗の越前大本山へ参拝者を抽籤せる筈にて、其の人員は二号支部八名、三号支部三十名、四号支部十六名、五号支部十五名、六号支部十七名、七号支部十名、八号支部十五名、九号支部十名にて、第一号は未定にて本年の九月は百廿余名本山へ参拝せる筈なりと。

大施餓鬼と講述〔明治27年7月7日 第二七五号〕

本日午後三時より七小町普蔵寺に於て、吉祥講第七号教場の法会を営み、因に竜桑顛師及び本社の水野も出席し、修証義を講述せる筈なりと云ふ。

大布薩と説教〔明治27年7月7日 第二七五号〕

当市上前津町長松院にては、来る十日国家安全の爲め大布薩及び説教を修行さるゝ由。

吉祥講広告〔明治27年7月7日 第二七五号〕

七日午後三時より説教及大施餓鬼修行

第七号教場 七小町 普蔵寺にて

出席 竜桑顛師 水野道秀師

八日午後三時より説教及大施餓鬼修行

第六号教場 門前町 安用寺にて

出席 前全断

十日午後二時より説教及大施餓鬼修行

第四号教場 上宿 周泉寺にて

出席 竜桑顛師

十二日午後二時より説教及大施餓鬼修行

第二号教場 東瓦町 威音寺にて

出席 早川見竜師

右修行候条、講員の方は御参詣相成度此段報告候也。

吉祥講 世話係

広告〔明治27年7月7日 第二七五号〕

本月八日午後五時より

孝子教会一週年演説

付 会員茶話会

名古屋支部大津町

光 円 寺に於て

広告〔明治27年7月8日 第二七六号〕

本月八日午後五時より

孝子教会一週年演説

付 会員茶話会

名古屋支部大津町

光 円 寺に於て

本山参拝と説教〔明治27年7月8日 第二七六号〕

当市門町安用寺に於ては、大光院方丈、小寺黙音両師の説教ある由。又同寺にては、近日吉祥講より本年越前大本山へ参拝者の抽織を行ふ筈なり。

大須観音堂の地築式〔明治27年7月8日 第二七六号〕

大須観音堂の地築式は、愈々来る八日（雨天なれば九日）と決定せりと。尚詳細の事は次号に。

孝子教会の一周紀念〔明治27年7月8日 第二七六号〕

全会は本日午後五時より大津町光円寺に於て挙行せられ、終て演説会を催さるゝ由にて、出席弁士は佐々木賢淳、太田元遵、広間隆円、水野道秀、其他数氏、亦本日は会員茶話会をも催さるゝと云ふ。

講述〔明治27年7月8日 第二七六号〕

来る十日午後二時より、白川町大運寺にて修証義講述の定日にて、社員水野出席せる筈なりき。

吉祥講広告〔明治27年7月10日 第二七七号〕

十日午後二時より説教及大施餓鬼修行

第四号教場 上宿 周泉寺にて

出席 竜桑顛師

十二日午後二時より説教及大施餓鬼修行

第二号教場 東瓦町 威音寺にて

出席 早川見竜師

右修行候条、講員の方は御参詣相成度此段報告候也。

吉祥 講世 話係

土宜僧正の来名〔明治27年7月11日 第二七八号〕

師は帰朝後西京に在りしが、愈々東上せらるゝに付、其の途次当市の真言宗寺院は師を歓迎し、又愛知仏教会にては師に一場の談話を乞はんと、目下孰れも尽力中なり。

講述〔明治27年7月11日 第二七八号〕

昨日白川町大運寺にて、久田竜峰師が出席修証義を講せられたり。

曹洞宗関西大懇話会〔明治27年7月11日 第二七八号〕

曹洞宗関西大懇話会は、愈々去る八日開会せられ、来会者も最も多く、中には婦人も見受けられしが、初めに読経あり。次に近藤疎賢氏閉会の辞ありて午後六時解散。同夜千歳座にて政談演説あり。

り。鬼頭孫三郎氏、小栗喜三郎氏、山田頼次郎氏（中止）、秋虎太郎氏、栗本晟氏、小室重弘氏等なりし、又昨夜は近藤疎賢氏外数名の仏教演説ありしが、聴衆も頗る多く、弁士は孰れも熱心に快弁を振はれき。

吉祥講廣告〔明治27年7月11日 第二七八号〕

十二日午後二時より説教及大施餓鬼修行

第二号教場 東瓦町 威音寺にて

出席 早川見竜師

右修行候条、講員の方は御参詣相成度此段報告候也。

吉祥 講 世 話 係

風声鶴涙か〔明治27年7月12日 第二七九号〕

此の頃当市に開かれし曹洞宗分離派の演説に際し、演説場を騒がしたる者ありしを、直ちに見て非分離派の壮士の如く記載したる新聞紙ありしが、今本社之聞く所によるに、当市には左る壮士を使役する者なく、且何れの演説会にも隅々騒ぐ弥次馬の入り込み居るは常の事なれば、別に怪して事に非ざるに、直ちに見て以て反対党となすは、全く風声鶴涙の類なるべきに、斯る記事を載する新聞紙の意を解するに苦しむなり。

土宜僧正〔明治27年7月14日 第二八一号〕

土宜僧正は、多分来る十七、八日頃に來名の筈なれば、其の際は

愛知仏教会に於ては、当市裏門前町の総見寺に招請して一場の談話を乞はるゝ事に決定せり。

愛知仏教会夏期講習会の講本〔明治27年7月14日 第二八一号〕

愛知仏教会夏期講習会の講本は、神谷大周師は四十二章経及び般若心経を、又本社之水野、広間及び早川の諸氏の講本は未定なり。

某弁士の演説を聞く〔明治27年7月14日 第二八一号〕

城北生投稿 頃日、曹洞宗分離派関西大懇親会てふを当市に開設せられ、同時に政教二家混合の演説会を御開会相成、久々に演説の中止さへ拝見仕候。最も開会の要目は、曹洞宗分非の件に内務官吏が立ち入り、政教を混するは不法の処置なりといふに在り。然るかと思へば、意外にも能仁新報は曹洞宗非分離派の機関なれば、斯る者は打ち毀ちて見す可しと弁せられたる弁士さへもありしと。然るに私共の眼孔より視れば、今だ以て能仁新報が非分離派の機関として筆を左右にせられしを見ず。要するに曹洞宗分非の是非たる既に公論のある所なれば、之れを今日に喋々するは汽車の臂押同様の事なれば復謂はじ。唯曹洞宗分離なる大事業家を以て任ぜらるゝ人にして、僅かに能仁社員中に稍意見を異にせらるゝ人ありとて之れを苦に痛み、大大演説会の席上に愚痴を漏さるゝは、大に大人しからざる挙動といふべし。拙者は能仁の愛読者にして、又護法憂國を以て任ずる者なり。聊か感あり

て一書を投ず。

吉祥講の講演〔明治27年7月15日 第二八二号〕

今十五日午後六時より大曾根町関貞寺に於て、早川見童師出席、全講の法会及講筵を開かるゝと云ふ。

曹洞宗支局会議〔明治27年7月15日 第二八二号〕

明十六日より当市裏門前町万松寺にて、県下二十号分局より議員を招集し議会を開かるゝと云ふ。

広告〔明治27年7月18日 第二八四号〕

来る十九日午後二時より門前町大光院に於て開会

愛知仏教会仏教演説

万国宗教大会出席欧米各国並に印度地方巡化

真言宗

土宜法竜僧正御出席

来る十九日午後五時より洲崎橋金城館に於て、土宜僧正を請し歡迎大懇親会開会候に付、御出席希望者は前日迄に大須宝生院若くは本会へ申込相成度候。但し会費金三十銭当日御持参の事。

南伊勢町百五番戸

愛知仏教会本部

炮烙加持〔明治27年7月18日 第二八四号〕

来る廿二日は土用丑なれば、例年の通り桜町本遠寺別院にて、小

児の虫封じ並に同加持を行はるべしと云。

広告〔明治27年7月19日 第二八五号〕

来る十九日午後二時より、門前町大光院に於て開会

愛知仏教会仏教演説

万国宗教大会出席欧米各国並に印度地方巡化

真言宗

土宜法竜僧正御出席

来る十九日午後五時より洲崎橋金城館に於て、土宜僧正を請し歡迎大懇親会開会候に付、御出席希望者は前日迄に大須宝生院、若くは本会へ申込相成度候。但し会費金三十銭当日御持参の事。

南伊勢町百五番戸

愛知仏教会本部

土宜僧正の来名〔明治27年7月19日 第二八五号〕

愈々本日来名に付、真言宗僧侶及び愛知仏教会よりは夫々出迎の為に笹島に出迎せらるゝ由。

神谷上人の来名〔明治27年7月19日 第二八五号〕

夏期講習会出席の為、明日笹島着の汽車にて来名せらるゝなり。

土宜僧正の演説〔明治27年7月20日 第二八六号〕

昨日大光院に於て開会されし同僧正演説会の景況は、暑気蒸すが如き候なりしにも関らず、正午より傍聴続々来集し、定時に至り

ては殆んど満堂立錫の余地なかりき。偕演説の概要を記さば前後二席にして、前席に於ては専ら昨年来国に開会せし万国宗教大會議の結果、即ち同大會議も最初に於ては余り世人の注意をも引かざりしが、初めて我々異安心者異宗教の徒が基督教国に行き、其の大会に出席せし等の為に、俄かに欧州人の注意を引き、遂に天地開闢以来未曾有の会を開き、或はサンフランシスコに仏教の殿堂を建てん事を乞ふ者あるに至り、其の他米國文学の中心たるボストンに於てすら、仏教の研究を為さんとする者二万人に余るべし等の説を学士社会に唱へしむるに至らしめたり。其の他欧米人をして、日本は文明國なり、獨立國なり等の事を知らしめ、従来宣教師輩が悪し様に謂ひなし居りし虚説讒言を破りし等は、結極我々仏教徒が同会に出席せし結果なりとの旨を述べられ、後席に於て印度に於ける現状を述べられしが、詳かには次号に述べべし。因に同師の懇親会は来会者殆んど二百名にて、余興に挿花煙火等ありしが、是亦詳かに次号に記すべし。又師は昨日七時五十分発にて上京せられたり。

合同会（明治27年7月24日 第二八九号）

当市裏門前町総見寺内の同会は、前月以来延引に及び居りしが、愈々来る廿四日には犬山町瑞泉寺の無学禪師を聘し同会を営まる可しと云。

高田応順師の赴任（明治27年7月25日 第二九〇号）

当市東袋町教泉寺住職高田応順氏は、過般当国組長を辭職し教用の為め本山滞在を命ぜられしが、今度越中富山別院の知堂申付けられしにより、近日越中へ向け赴任せらるゝ由。

吉祥講廣告（明治27年7月25日 第二九〇号）

七月廿七日午後二時より 宝町 禪芳寺

説教師 野々部至遊師

仝 水野道秀師

七月廿八日午後二時より 古渡町 東海寺

説教師 早川見竜師

右当日は大本山參詣者抽籤致し候条可成御參詣被下度候

吉祥講世話係

吉祥講廣告（明治27年7月27日 第二九二号）

七月廿七日午後二時より 宝町 禪芳寺

説教師 野々部至遊師

仝 水野道秀師

七月廿八日午後二時より 古渡町 東海寺

説教師 早川見竜師

右当日は大本山參詣者抽籤致し候条可成御參詣被下度候

天台宗中学林定期大試験〔明治27年7月28日 第二九三号〕

県下西春日井郡杉村長栄寺内に設立し在る関西聯合中学林支校夏期大試験は、本月廿四日より当市東田町円教寺内同宗々務所に於て執行の所、廿五日結了の上修業証授与式を挙行せり。全日午前九時鳴鐘開場を報し、各学生も何れも正服を着し幹事の指揮に由り予て設けの席に集り。式場には校長大僧都中村講師正面に着席せられ、伊藤教師、尾藤幹事、四方山副幹事、立会員光明寺殿外十余名は左右に列立し、夫れより幹事の称呼を以て証書賞誉等を授与し畢て、校長の祝辞及び生徒の答辞演説及び国運長久の爲一同大般若転読ありたり。

神谷僧正送別会〔明治27年7月29日 第二九四号〕

大野講習会へ出席せられし諸氏は、明三十日午後三時より松山町梅屋寺に参集し、講師神谷僧正の慰勞を兼送別会を催さる筈なりと云ふ。

腹籠聖徳皇太子尊像の開帳〔明治27年7月31日 第二九五号〕

当市七ツ寺境内の腹籠聖徳皇太子堂は先頃破壊せしより、今回堂宇を新築したれば、来月五日其入仏式を修行し、翌六日より向三十日間開帳さるゝ由。因に同尊像は太子十六歳の御時弘通の誓願を發させ給ひ、御親刻の上御母公へ差上げ参らせられし世に難有き尊像にて、靈験殊の外著るしければ、昔宝曆年間に当市の有志は市中に太子堂の有らざるを深く歎き、美濃国安八郡大藪村の大

工善右衛門に懇望して、尊像を請得て堂宇を建立し安置し奉りしものなりと。

広告〔明治27年8月1日 第二九六号〕

八月一日正午より

在韓軍隊 羅漢講式 並
勇健祈念 説教

曹洞宗一号分局寺院総出勤

松山町 安 齋 院

高僧の来名〔明治27年8月2日 第二九七号〕

日蓮宗管長古谷日新僧正には、今二日小川町妙本寺へ来着せらる由。亦神谷大周教師には、五日三河地方より来名せらるゝ筈にて、予て延期せられし全師の慰勞会は来六日に催さるゝ筈なり。

大谷派別院大演説の光景〔明治27年8月2日 第二九七号〕

昨日大谷派別院に於て催されたる全会は、蒸か如き炎暑にも拘らず、正午頃より参聴者は続々詰掛け、第一菰倉耕三（期不可失）第二中川文任（結合力）第三児門賢象（仏教徒の義務）第四帝国大学講師村上专精（知恩報徳是聖道）等の演題にて、何れも熱心に真俗二諦の教旨を演せられ頗る感動を与へたり。亦全日は本社新報数百枚を聴衆に配付し、軍費献金の必要を促せり。今日は流石に広き対面所も立錫の地なき盛会なりき。

勝軍祈祷と奨励演説〔明治27年8月2日 第二九七号〕

愛知郡熱田町白鳥山に於ては、昨日より向ふ一週間近傍寺院の清僧二十余名を招集し、日清事変にて我国陸海軍大勝利祈祷の爲め大般若を転読し、尚ほ本日午後六時より義勇奨励義捐募集の演説を開会するに付、京都府より河口大謙師を招請し一場の演説を乞ひ、尚ほ弁士として明達慧等、浅井泰山、岡谷資三郎の諸氏出席せらるゝ由なれば、定めて盛大ならん。

軍隊祈祷会の概況〔明治27年8月2日 第二九七号〕

昨日当市松山町安齋院に於て執行せられし全会は、炎暑にも拘らず参詣者最も多く、曹洞宗寺院には何れも出勤せられ、慇懃なる祈祷会にて續て、野々部至遊師、日軍人献金に関する説教を勤められたり。

説教〔明治27年8月2日 第二九七号〕

当市押切町養照寺に於て、一昨日より海東郡内佐屋村信力寺の擬講海老原静観師を聘して説教を開筵せられ、本日の午後には講話を開会せらるゝ由なり。

日清事件に付集会〔明治27年8月2日 第二九七号〕

本県下臨濟宗妙心寺派各寺院は、本日当市裏門前町総見寺に於て集會を開き、軍費献金及び勝軍祈祷等を協議せらるゝ由。

仏教講義〔明治27年8月2日 第二九七号〕

当市下茶屋町東輪寺に於て有志者数名相集り、宮田智俊師を招請して来る六、七日頃より毎日午後七時始めにて四教儀集註の講義をさるゝ由にて、聴講望みの人は裏門前町総見寺へ申込むべき筈なり。

安齋院祈祷会の詳報〔明治27年8月3日 第二九八号〕

一昨日松山町安齋院に於て執行せられたる勝軍祈祷の法会は、全日本堂に 陛下万歳敵国降服、在韓海陸軍隊勇健、と認めたる二軸を正面に掛け、野々部至遊師の導師にて羅漢講式あり。亦織田宝山師の導師にて追吊の誦經あり。了て野々部氏の説教ありしが、同参詣者にして直ちに六円余の献金を成せり。全日出席寺院には含笑寺、乾徳寺、長全寺、泰増寺、正福寺、宗吉寺、松徳院、威音院、広徳寺、永安寺、梅屋寺、就梅院、慈眼院、聚福院、普蔵寺、永林寺、禅芳寺、安清院、清音寺、護国院等にて、外に尼僧数名出席せられたり。

大般若転読〔明治27年8月3日 第二九八号〕

日清事件の爲、右寺院申合せ国家静寧在韓軍人健康祈念の爲め大般若經を転読せらるゝ由にて、寺院及び日並は来る三日午後五時より当市上宿柳町周泉寺に於て、翌四日は午後六時より西春日井郡金城村大字児玉観音寺に於て、翌五日は午後六時より枇杷島町清音寺に於て、翌七日は午後六時より愛知郡鷺場村字栄菊泉寺に

於て執行する筈なりと。

安齋院祈禱会の詳報に就て〔明治27年8月4日 第二九九号〕

前号能仁に掲げし祈禱会に出席せし寺院にて、記載漏れありしやにて聞込みしまゝ、記さんに照運寺、曹流寺、菊泉寺、周泉寺、光明院、梅屋寺閑居、前普蔵寺も出席されし事なれば、其脱漏の罪を謝し併せて読者に報ず。

曹洞宗分局会議〔明治27年8月4日 第二九九号〕

全宗第一号分局下寺院には、今朝松山町安齋院にて会議を開き、全宗の教会講長及寺院惣代を撰挙せらるゝ由なるが、講長には六名の候補者、亦寺院惣代にも六名の候補者を布達せられたり。何れも全宗にしは有為鏘々たる人物なりと云ふ。左に大島天珠、大江靈樹、竜桑巖、野々部至游、小寺黙音、杉本道山、（講長候補者）河村鴻川、益山慈照、小寺黙音、金剛得全、寺西確門、杉本道山（以上総代候補者）。

学林の開林〔明治27年8月4日 第二九九号〕

久しく紛擾の爲め閉林中なりし曹洞宗学林は、弥々九月十一日より開林せらるゝ由にて、元全林生徒は八月三十日迄帰林届け出すべき達せられたり。全教師には早川見竜、山田祖学の二師へ命せられしと云ふ。

戦勝祈禱と説教〔明治27年8月4日 第二九九号〕

当市橋詰町円頓寺にては国家安全戦勝祈禱の爲め、昨日より五日間信徒数百名にて一万遍を修行し、且義氣奨励の説教をさるゝ由なり。

有松通信〔明治27年8月4日 第二九九号〕

地方通信

知多郡有松町曹洞宗祇園寺住職荒谷性顕氏は平素布教に最も熱心尽力さるゝが、果して今回日清開戦ありし報に接するや、忽ち各宗の有志僧侶を糾合し、一つの団体を組織し、以て彼の地に渡航し帝国派遣の軍隊を慰めんものとして、頃日奔走せられたりしに、時柄故直ちに各宗寺院の賛成を得し上、既に其筋へ出願する迄の準備に整頓せり。其組織の要領を聞くに団体を埋葬、護民、看護の三部に分ちて従事することに定め、近日陸軍大臣並びに各宗管長へ出願せんとて其計画に運び居る由。これ実に美拳なり。凡て宗教家は義務として四恩報謝の爲め斯く望ましかれ。▲荒谷性顕氏は会主となり、来る六日より十二日間派遣軍隊大勝利の爲め、毎夜寺院十数ヶ寺を集め理趣分を転読し祈禱を行ひ併せて戦死者の追吊会を修行せらるゝ由にて、早川見竜師には同会に臨み、人心鼓舞の演説をさるゝ由なり。

軍馬の逸走〔明治27年8月7日 第三〇二号〕

一昨日午後八時頃、小川町遠照寺境内に繋ぎありし軍馬、如何な

る都合か境外へ逸走し各所を飛廻りたり折柄、全町辺は□□□□
 □混雑一方ならず。故に巡查は直ちに追跡せられしも、已に該馬
 は南小川町施葉院前にて砲兵の爲め捕へられたりしを以て、幸に
 も人畜には損傷なかりし由。

寺院献金〔明治27年8月7日 第三〇一号〕

金沓円呼続村白毫寺、金沓円黄竜寺、全長福寺、全竜泉寺、全宝
 泉寺、全天聖寺、全医王寺、等より何れも沓円宛宗務支局へ差出
 されしと云ふ。

御器所支部の祈祷〔明治27年8月7日 第三〇一号〕

愛知仏教会の御器所支部会にては、一昨五日全村各宗寺院参集、
 大般若経を転読し軍隊武勇の祈祷を修し、続いて午後三時より大
 演説会を開き、木村某、木村文翁、水野雷幢の諸氏交々登壇、熱
 心に義氣奨励献金徳誦の旨を述べられたり。亦夜会には本社の水野
 が出席し、開戦の詔勅を詳説して国民の元気を発揚すべきを論じ
 たり。昼夜共参聴最も多く非常の盛会なりき。

安齋院の祈祷会〔明治27年8月7日 第三〇一号〕

全院は過日五日間の祈祷会を修せられしが、猶一昨日より更に金
 剛経壹万部会を開き、我が軍隊が凱旋せる迄不断祈念せらるゝと
 云ふ。

戦勝祈祷〔明治27年8月7日 第三〇一号〕

愛知郡熱田町臨濟宗組合各寺院住職諸師は報告の爲め、去る一日
 より七日間大法寺に集り、大般若経六百軸転読し敵国降伏我兵健
 全の祈祷会を修行し、尚ほ各寺院には軍費の内へ夫々献金するこ
 とせられたり。

軍人へ懐中守護の施与〔明治27年8月7日 第三〇一号〕

当市真言宗大須宝生院にては、鎮護国家敵国降伏兵士勇健祈祷の
 爲め五大明王を本尊として、昨日より毎朝未明を期し祈祷会を修
 行せらるゝ由。尚ほ軍人に限り希望の者には軍人守護の懐中守り
 を施与せらるゝ由なり。

町民の義気〔明治27年8月7日 第三〇一号〕

当市駿河町三丁目有志者には、昨六日松山町安齋院に就き大般若
 経を請ひ敵国降伏の祈念を修したりと云ふ。亦全住職野々部氏
 は、右法礼は軍費に献納せられしと云ふ。亦奇篤の拳と云ふべ
 し。

広告〔明治27年8月7日 第三〇一号〕

日清開戦に付、当山に於て宗祖相承の秘軌に則り、鎮護国家敵兵
 降伏在韓兵士健勝の爲め、本日より毎朝未明に秘法を修行して祈
 念の丹誠を尽し候。就ては軍人に限り軍中守護の懐中守を差上候
 間、御望の方は当山へ被申出度候也。

名古屋市門前町

八月六日 真言宗
大須 宝生院

真宗勝友会〔明治27年8月8日 第三〇二号〕

当市皆戸町真宗寺の同会仮本部に於て、来る十日より弁士伊藤義頭師を招聘し仏教大演説会を開き、併せて説教をも開筵せらるゝ由。

三尊仏内拝及び祈祷〔明治27年8月8日 第三〇二号〕

当市七ツ寺境内信州善光寺出張所にては、去る五日より三七日間御本尊三尊仏の内拝を許し、金剛經千部読經の上鎮護国家戦勝祈祷をなし、夜間は片岡月峰氏の三国伝来図絵、大矢春女史（十二年）の菴萱一代記の図絵を解説せらるゝ由にて、毎夜非常に賑ふ由。

戦勝祈祷〔明治27年8月8日 第三〇二号〕

当市新出来町臨濟宗徳源寺にては、本月一日より三日間実叢禪師始め雲衲五十余名本堂に参列して大般若経を転読し、帝国陸海軍万歳を祈念せしと云ふ。亦全寺にて、本月十六日には当市全宗各寺院一同参集し戦勝祈念の法会を修せらるゝと云ふ。

愛知通信〔明治27年8月8日 第三〇二号〕

県下愛知郡鍋屋上野村天台宗長養寺に於て、勝軍祈願の爲め大般若

経を転読し終て大演説会を開かる。弁士は江尼深海、駒井浄全の両氏出席さるゝ由。

戦勝祈祷と守札施与〔明治27年8月9日 第三〇三号〕

当市南伏見町高野山中性院出張所に於て、去る四日僧侶三十五名を招請し戦勝祈祷会を修行し、猶山主は引続き毎日護摩供祈念をなし、併せて軍費献金勧誘に従事し、且つ従軍者身心堅固の爲め開運の肌守数百個を軍人及び渡韓人夫中にて、望みの者には申込次第直に渡さるゝ由。

勝軍祈祷〔明治27年8月10日 第三〇四号〕

当市上島町曹洞宗釈迦堂に於て、去る七日近傍尼僧十余名参集。大般若を転読し勝軍の祈念を成し、続て野々部至遊師の説教あり。因に参集の尼僧及信徒より軍費献金を申込れたり。

田代村軍隊勇武の祈念〔明治27年8月10日 第三〇四号〕

愛知郡田代村大字末盛曹洞宗桃岩寺にて、来る十一日近傍寺院参集、大般若経を修し軍隊の勇武を祈念し、続て義気奮興の演説を催さる筈にて、出席水野雷幢等数名にて本社の水野も出席の筈。

広告〔明治27年8月12日 第三〇六号〕

日清開戦に付、当山に於て宗祖相承の秘軌に則り、鎮護国家敵兵降伏在韓兵士健勝の爲め、本日より毎朝未明に秘法を修行して祈

念の丹誠を尽し候、就ては軍人に限り、軍中守護の懐中守を差上候間、御望の方は当山へ被申出度候也。

名古屋市門前町

八月六日 真言宗 大須宝 生院

真宗本派檀徒諸君に告ぐ〔明治27年8月12日 第三〇六号〕

今や日清両国宣戦の詔勅を降したまふに先きんじて、我大法王殿下に於ては、今回の事変を深く恐察し玉ひしより、執行長は去る七月三十一日に諭告を發布せられたり。其の略に曰く、「此際に於て本宗の門徒たる者何を以て国恩に報答せんとするや、夫我真宗は二諦相資けて以て二世の幸福の完全ならしむ。其真諦とは弘願他力を深信して報土得生を決定し、何等の事変に遭遇するも泰然として恐るゝ事なし。其俗諦とは忠孝を重んじ、職業を勉め緩急に臨み国家と休戚を同くするにあり。今や出征の軍隊は拍天の洪濤を凌ぎ、三伏の炎熱を省みず身を抛ち、報国の分を尽さんと期せり。在国の輩豈に坐視傍観す可んや。政府已に恤兵部を開き、軍資献納の義挙を遂げしむ。是時に当り、本宗門徒たるもの平生業成の安心に住し、国民の義務を尽す時は、独り宗門の光輝を発揚するのみならず、上は国威を伸長し、下は一般の人心を鼓舞するを得べし」と懇諭せられぬ生等、此の執行長の訓告を拝承するや、直ちに応分の献納を為せり。各寺檀徒に於ても、此の諭告の旨を体認し、本山使僧の派遣を待たず速に軍資献納の義挙を遂げ、本宗信徒の自分を尽されんことを謹て告す。

当市鍋屋町	教順寺	木造	等観
全 東袋町	教泉寺	高岡	応順
全 玉屋町	覚正寺	後藤	了恵
全 蒲焼町	善導寺	中川	泰道
全 菅原町	浄教寺	広間	隆円
全 飯田町	円勝寺	本多	静清
全 奥田町	西念寺	原	鳳隨
全 島田町	正覚寺	小笠原	大了
全 菅原町	教授寺	横井	南空
全 東田町	宗円寺	小笠原	顯廷
全 皆戸町	真宗寺	水野	善乘
全 鉄砲町		長	円寺
全 蒲焼町		真	広寺
全 菅原町		興	善寺
全 橘町		延	広寺
海東郡富塚浄慶寺住職林	円	鏡	
西春日井郡枇杷島町	西	源	寺

各寺檀徒御中

田代村演説概況〔明治27年8月14日 第三〇七号〕

去る十一日、田代村曹洞宗桃岩寺に於て催されたる勝軍祈念及演説会は、予期の如く正午十二時より近傍寺院大般若經を転読せられ、夫より水野雷幢氏の演説あり。亦夜会には本社の水野も席

し、義氣奮興の演説を為せり。全日は村内一同休業を為し、村長及役場員議員を始め一同参席熱心に傾聴せられたり。亦全村は軍人家族優待法を設け、亦草鞋を献納せらるる計画なりと云ふ。

東輪寺の施餓鬼会〔明治27年8月14日 第三〇七号〕

当市下茶屋町黄檗宗東輪寺にては、毎年陰曆七月十五日には大灯笼を点じ、大施餓鬼を修行せらるゝか。本年も例年の通り、全日は盛んに全法会を挙行せらるゝと云ふ。

勝軍祈祷〔明治27年8月14日 第三〇七号〕

当市日の出町徳林寺にては、去る一日より一週間勝軍祈祷の爲め大般若経理趣分を誦読せられしが、尚ほ引続き祈祷中の由。又上笹島観音堂にても同様祈祷ある由。又海東郡大治村真言宗自性院に於ては、去る十一日組合十二ヶ寺院惣出勤にて大般若経を転読されし由。

広告〔明治27年8月15日 第三〇八号〕

来る十七日正午より

帝国勝軍 祈祷大般若
敵兵敗亡

無有両縁 大施餓鬼会
先亡追薦

説教師 安齋院方丈

尚、当日大本山参詣圖引致候間、講員諸氏は必ず御参詣相成候也。

第二号吉祥講支部

瓦町 威 音 院

広告〔明治27年8月17日 第三一〇号〕

日清開戦に付、当山に於て宗祖相承の秘軌に則り、鎮護国家敵兵降伏在韓兵士健勝の爲め、本日より毎朝未明に秘法を修行して祈念の丹誠を尽し候。就ては軍人に限り軍中守護の懐中守を差上候間、御望の方は当山へ被申出度候也。

名古屋市門前町

八月六日 真言宗 生 院
大 須 宝

旧盆の景況〔明治27年8月17日 第三一〇号〕

郡部各地方は旧慣に従ひ、旧盆前日は半年貸債主の掛取に廻る事なる故、随分雑沓するならん。其れに引きかへ市内は、去る事なきも〇〇及び人夫の入込みにて一方ならず雑沓せり。就中殊に賑はしきは例の大須境内、廓、広小路なるが、此の外毎年陰曆七月十五日大灯笼を点ずる下茶屋町東輪寺、石町大光院、出来町五百羅漢も可なりの賑はひなりし。而して本重町新守座は大坂若手俳優一座の興行にて、此暑さも顧はず昼夜二回車輪の働き故上景気、又末広町末広座は女俳優一座にて是又可なりの人気、其他の劇場寄小屋も可なりの入なりし。概して市内は米価及び諸物価騰

貴の為め、非常の不景気なりし。

大施餓鬼と説教〔明治27年8月18日 第三二一号〕

本日午後二時より児玉村曹洞宗観音寺にて大施餓鬼を修行し、続て説教を奉行せらるゝ由にて、水野が出席せる筈なり。

宝物の虫干〔明治27年8月21日 第三二三号〕

当市飯田町の養念寺は、例年の如く来る廿四日（陰暦の盂蘭盆会）には宝物の虫干をなし、普く参詣の信徒に拝観さする由なるが、同寺は旧藩主の御黒印地なれば、当市の最も古梵閣にして堂宇の結構と林泉の佳致なると、庭園に烏ヶ池の古跡等あるは、読者已に尾張名所図絵に顕著なれば知らるゝならん。該の本山に於ても名古屋御化導の節最初の地と称する由にて、頗る古代の什宝数多ある由なり。因に同日は午前八時より午後四時迄なりと。

勝軍祈祷〔明治27年8月21日 第三二三号〕

愛知郡一柳村空雲寺は去る十六日に、翌十七日は同郡柳森村禅養寺にて、翌十八日は同郡御厨村竜潭寺にて、何れも皇軍全勝敵兵降伏祈祷の為め大般若経を転読されし由。

勝軍祈祷〔明治27年8月22日 第三二四号〕

当市桜町本遠寺別院にては伝灯講中有志者相謀り、同寺に依頼して本月廿四日より廿八日迄五日間国運勝利敵国降伏の祈祷を為し

〔能仁新報〕よりみた名古屋の仏教（五）

万遍講を勤め、尚ほ演説説教を為し軍中守をも授与すと云ふ。

全勝祈祷〔明治27年8月23日 第三二五号〕

当市松山町就梅院に於て、来る廿四日皇軍全勝敵兵降伏祈祷の為め大般若経の転読をなし、次に戦死精霊供養の為め大施餓鬼会をさるゝ筈、又当日は同寺に於て、吉祥講第七号支部より大本山参詣者の鬪引をなす由なり。

大施餓鬼〔明治27年8月23日 第三二五号〕

当市門前町安養寺にては、来る廿三日大施餓鬼会を執行せらるゝ筈なり。

戦死者追吊会〔明治27年8月23日 第三二五号〕

去る廿一日、愛知郡明德村天年寺に於て戦死者追吊会を執行し、終て義氣奨励の説教ありたり。因て参詣者より即時献金する人もありし。

全勝祈祷〔明治27年8月25日 第三二七号〕

当市古渡町東海寺に於て、来る廿六日皇軍全勝敵兵降伏祈祷の為め大般若経を転読し、次て戦死精霊及び吉祥講祖先供養の為め大施餓鬼会を修行の筈にて、大光院住職竜桑頼、中学林講師山田祖学両氏の説教ある由。

地藏盆〔明治27年8月25日 第三二七号〕

昨日は旧七月廿四日にて地藏盆に相当すれば、例年の如く当市矢場町清浄寺の地藏盆は、雨天にも拘はらず非常の大賑合ひにて大施餓鬼もありしされば葡萄、蓮の実、鬼灯、等は例の如く大売れならん。

勝軍祈禱と仏教演説〔明治27年8月25日 第三二七号〕

愛知郡熱田町亀井山に於ては、町内各宗寺院聯合し勝軍祈禱の爲め大般若会を来る廿七日施行し、終て仏教大演説会を開かるゝ由。猶ほ向ふ七日間修行さるゝ筈なり。